総務委員会・分科会 会議記録

- 1 期 日 令和 2 年 9 月 14 日 (月)
午前 9 時 26 分 開会
午後 2 時 32 分 閉会
- 2 場 所 第 1 委員会室
- 3 出席委員 委員長 伊藤 仁
副委員長 奥村 忠俊
委員 足田 仁司、石津 一美、
岡本 昭治、木谷 敏勝、
嶋崎 宏之
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼議事係長 佐伯勝巳
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

総務委員長・分科会長 伊藤 仁

総務委員会（分科会）次第

2020年9月14日（月） 9：30～
第1委員会室

- 1 開会

- 2 委員長あいさつ

- 3 協議事項
 - (1) 付託・分担案件の審査について〈2頁〉
 - ア 委員会審査

 - イ 分科会審査

 - (2) 意見・要望のまとめについて
 - ア 委員会意見・要望のまとめ

 - イ 分科会意見・要望のまとめ

- 4 その他

- 5 閉会

令和2年第4回豊岡市議会（定例会）議案付託表

【総務委員会】

- 報告第19号 令和元年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
- 第94号議案 市有財産の処分について
- 第95号議案 損害賠償の額を定めることについて
- 第126号議案 令和元年度豊岡市管理会財産区特別会計歳入歳出決算の認定について

予算決算委員会付託議案に係る分科会分担表

【総務分科会】

- 第108号議案 令和2年度豊岡市一般会計補正予算（第11号）
- 第119号議案 令和元年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定について
- 第132号議案 令和2年度豊岡市一般会計補正予算（第12号）
- ※ 第108号議案及び第119号議案中の人件費分は、総務分科会に一括分担する。

総務委員会（分科会） 審査日程表

審査日程	所管（出席対象）部署	審査内容
9月14日（月） 9：30～ 第1委員会室	<p>【議会事務局】</p> <p>【政策調整部】 秘書広報課、政策調整課、 財政課、公共施設マネジメント推進室、 防災課</p> <p>【地域コミュニティ振興部】 コミュニティ政策課</p> <p>【各振興局】 地域振興課（総務担当）</p>	<p>【委員会】</p> <p>《議案》 ＜説明、質疑、討論、表決＞ ○第126号議案</p> <p>【分科会】</p> <p>《令和元年度一般会計決算認定議案》 ＜説明、質疑、討論、表決＞ ○第119号議案</p> <p>《委員会審査意見、要望のまとめ》 《分科会審査意見、要望のまとめ》</p>
9月14日（月） 13：00～ 第1委員会室	<p>【政策調整部】 財政課</p> <p>【総務部】 総務課、ワークイノベーション推進室、 人事課、情報推進課</p> <p>【市民生活部】 税務課</p> <p>【会計管理者】 会計課</p> <p>【消防本部】 総務課、予防課、 豊岡消防署（警防課）</p> <p>【選管監査委員事務局】</p>	<p>【委員会】</p> <p>《議案》 ＜個別に説明、質疑、討論、表決＞ ○報告第19号 ○第94号議案 ○第95号議案</p> <p>【分科会】</p> <p>《令和2年度一般会計補正予算議案》 ＜個別に説明、質疑、討論、表決＞ ○第108号議案 ○第132号議案 ・主要事業等の説明</p> <p>《委員会審査意見、要望のまとめ》 《分科会審査意見、要望のまとめ》</p>
9月15日（火） 9：30～ 第1委員会室	<p>【議会事務局】</p> <p>【政策調整部】 秘書広報課、政策調整課、 財政課、公共施設マネジメント推進室、 防災課</p> <p>【総務部】 総務課、ワークイノベーション推進室、 人事課、情報推進課</p> <p>【地域コミュニティ振興部】 コミュニティ政策課</p> <p>【市民生活部】 税務課</p> <p>【各振興局】 地域振興課（総務担当）</p> <p>【会計管理者】 会計課</p> <p>【消防本部】 総務課、予防課、 豊岡消防署（警防課）</p> <p>【選管監査委員事務局】</p>	<p>【委員会】</p> <p>《議案》 ＜個別に説明、質疑、討論、表決＞ ○報告第19号 ○第94号議案 ○第95号議案</p> <p>【分科会】</p> <p>《令和2年度一般会計補正予算議案》 ＜個別に説明、質疑、討論、表決＞ ○第108号議案 ○第132号議案 ・主要事業等の説明</p> <p>《委員会審査意見、要望のまとめ》 《分科会審査意見、要望のまとめ》</p>

※ 総務分科会での予算議案の説明は、基本的に①財政課（全体概要含む）、②人事課（人件費含む）、③その他の課（組織順）の流れでお願いします。

2020年度 豊岡市議会総務委員会名簿

2020年9月14日(月)

【総務委員】

委員長	伊藤 仁
副委員長	奥村 忠俊
委員	足田 仁司 石津 一美 岡本 昭治 木谷 敏勝 嶋崎 宏之

7名

【説明員】

議会事務局	
議会事務局長	宮本 ゆかり
議会事務局次長	安藤 洋一
政策調整部	
政策調整部長	塚本 繁樹
政策調整部参事 (行財政改革担当)	正木 一郎
政策調整部次長兼公共施設マネジメント推進室長	土生田 哉
秘書広報課長	山口 繁樹
秘書広報課参事	和田 征之
政策調整課長	井上 靖彦
政策調整課参事 (行財政改革担当)	若森 洋崇
財政課長	畑中 聖史
防災監	宮田 索
防災課長	原田 泰三
総務部	
総務部長(会計管理者)	成田 寿道
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤
総務課長	太田垣 健二
総務課参事(文書法制担当)	宮代 将樹
ワークイノベーション推進室参事	岸本 京子
人事課長	山本 尚敏
人事課参事	小川 琢郎
情報推進課長	中奥 実

地域コミュニティ振興部	
コミュニティ政策課長	土生田 祐子
市民生活部	
税務課長	宮崎 雅巳
城崎振興局	
地域振興課長	谷垣 一哉
竹野振興局	
地域振興課参事	山根 哲也
日高振興局	
地域振興課長	中川 光典
出石振興局	
地域振興課長	今井 謙二
但東振興局	
地域振興課長	大石 英明
会計課	
会計課長	三笠 孔子
消防本部	
消防長	榊田 貴行
消防本部次長兼総務課長	吉谷 洋司
豊岡消防署長兼警防課長	中古谷 康彦
予防課長	上田 有紀
選挙管理委員会・監査委員事務局	
選管監査事務局長	宮岡 浩由

33名

【担当事務局職員】

議会事務局主幹兼議事係長	佐伯 勝巳
--------------	-------

計 41名

午前9時26分 委員会開会

○委員長（伊藤 仁） 皆さん、おはようございます。定刻より大分早いですけれども、早速、総務委員会を開会したいと思います。

今日は決算認定というところから入ろうかと思っておりますので、昨年度の年間、いろんな活動に対しての疑問点を調査していただきたいというふうに思います。

まず、本日、明日2日間の審査の予定についてお知らせをします。

審査の順序は、お手元の審査日程表のとおり、議案の順序を変更し、本日は当委員会に付託された第126号議案及び当分科会に分担された第119号議案の審査として、説明、質疑、討論、表決までを行い、その後、本日の意見、要望のまとめを行う予定です。

明日は、当委員会に付託された、また当分科会に分担された議案の審査として、個別に説明、質疑、討論、表決を行います。その後、意見、要望のまとめを行います。

また、委員の皆さんは、総務委員会次第とは別に審査のための資料をお配りしております。それぞれ右肩に議案番号を記載しておりますので、それを見ながら審査をお願いいたします。

本日の当局出席者についてであります。審査日程表に合わせ、午前、午後に分けて所管部署の職員に出席いただくよう要請しておりますので、ご了承願います。

委員の皆さん並びに当局の皆さんは、質疑、答弁に当たりましては、要点を押さえて簡潔明瞭に行ってください、スムーズな議事進行にご協力をお願いいたします。

なお、委員会及び分科会の発言は、委員長、分科会長の指名の後、マイクを使用して、課名と名字を名乗ってから行っていただきますようお願いいたします。

それでは、これより3、協議事項、（1）付託・分担案件の審査について、ア、委員会審査に入ります。

まず、第126号議案、令和元年度豊岡市管理会財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

大石但東振興局地域振興課長。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 議案書の425ページをご覧ください。議案書が425ページで、それから別冊の決算書で申しますと、決算書のほうは592ページ、593ページとなります。

それでは、決算書のほう、593ページ右側の備考欄をご覧ください。人件費7万2,670円につきましては、管理会委員5名の報酬などです。このほか、一般管理費、財産管理費などを支出しまして、一番下でございます歳出の合計は9万606円でございます。

続きまして、歳入です。591ページをご覧ください。591ページ、これも右側の備考欄、主なものとしましては、中ほどに前年度繰越金22万5,555円でございます。歳入の合計は、一番下、22万4,630円となっております。

それから、626ページ、627ページにかけて、財産に関する調書がございます。令和元年度につきまして、増減はございません。

以上で説明を終わります。

○委員長（伊藤 仁） 説明は終わりました。質疑はありませんか。

質疑を打ち切ります。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 仁） 討論を打ち切ります。

お諮りします。本案は、認定すべきものと決定してご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 仁） ご異議なしと認めます。よって、第126号議案は、認定すべきものと決定しました。

ここで委員会を暫時休憩いたします。

午前9時33分 委員会休憩

午前9時33分 分科会開会

○分科会長(伊藤 仁) 分科会を開会いたします。

それでは、これよりイ、分科会審査に入ります。

第119号議案、令和元年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

第119号議案中、当分科会に審査を分担されましたのは、所管事項に係る歳入歳出決算、実質収支に関する調書、財産に関する調書等についてであります。

十分な質疑時間を確保するため、当局には新規事業や前年度から大きな変更があった事業及び主要事業等を主として説明をいただくよう依頼しております。

当局の説明は、まず財政課から全体概要を含めて説明をいただき、その後、組織順で課ごとに所管に係る歳出、歳入、実質収支調書、財産調書等をつけて説明をお願いいたします。

質疑は、説明が終わった後に一括して行います。

それでは、順次説明をお願いいたします。

畑中財政課長。

○財政課長(畑中 聖史) それでは、まず決算の概要ということで、一般会計決算につきまして説明させていただきますと思います。

まず、決算書の資料のほうですけれども、606ページ、607ページをご覧いただきたいと思います。実質収支に関する調書でございます。決算書の606ページ、607ページでございます。令和元年度の一般会計の決算額は、一番左の数字の欄ですが、歳入総額が486億8,675万9,000円、歳出総額が471億9,378万1,000円でした。翌年度への繰越財源2億5,299万6,000円を除いた実質収支額は12億3,998万2,000円の黒字となっております。

前年度の実質収支額との差引きであります単年度収支額、参考欄の2段目になりますが、これが4億1,713万5,000円の黒字となっております。また、年度中の財政調整基金への積立金や取崩し額など、黒字、赤字要素を加味しました実質単年度収支、一番下の段になりますが、これが1億6,

974万6,000円の黒字ということになっております。

決算書の7ページでございます。初めのほうに戻っていただきたいと思っております。7ページが一般会計の歳入歳出決算書ということで、先ほど1,000円単位で申し上げましたが、これが円単位で表示されております。翌年度繰越額ということで、先ほど申し上げました12億3,998万1,936円、これが黒字ということでございます。

黒字の要因といたしましては、歳入では最終予算との比較としまして、市税収入が約1億700万円の増額、一方、歳出のほうですが、扶助費ですとか除雪経費などの執行残、また繰越明許費の入札残などで総額約13億7,700万円の不用額が発生することによりまして、12億円余りの黒字が出ているということでございます。

8ページ、9ページをご覧いただきたいと思いません。歳入歳出決算款別総括表でございます。まず歳入でございます。歳入は、地方消費税交付金、地方交付税分担金及び負担金、繰入金などが昨年度と比べて減額となっております。一方で、地方特例交付金、国県支出金、寄附金、繰越金などが増額となっております。全体としまして対前年度比16億7,437万3,000円の増、パーセンテージにしまして3.6%の増というような状況でございます。

主なものにつきましてご説明いたします。まず1、市税ですが、法人市民税、固定資産税、入湯税が減収となった一方で、個人市民税、軽自動車税、市たばこ税などが増収となっております。全体としましては、対前年度比37万1,000円の増と、ほぼ横ばいという形でございます。11の地方交付税のうち、普通交付税ですが、合併算定替えの縮減、70%になりますが、この影響によりまして2億200万円の減ということになっております。また、特別交付税につきましては、約2,300万円の減ということでございます。それから、13の分担金ですけれども、これが昨年度と比較しまして約1億4,000万円の減となっておりますが、主に幼児教育・

保育の無償化等によるものということでございます。18の寄附金が、ふるさと納税が好調でございまして、約5億2,600万円の増額というふうになっております。また、20の繰越金ですけれども、2018年度から2019年度への繰越事業が約12億円もあったことから、約9億8,300万円の増額ということでございます。

自主財源の比率でございすけれども、2019年度の決算では一般会計では35.5%ということとなっております。昨年度が34.6%でしたので、0.9ポイント上がっていることになってます。これは、先ほど申し上げました繰越金の増額が要因となっております。

次に、不納欠損の欄ですけれども、9ページのちょうど真ん中の列の最下段になります。不納欠損の額は2,891万2,964円。その右の欄にあります収入未済額は総額で13億6,720万4,027円となっております。なお、この収入未済額ですけれども、繰越事業の未収入特定財源であります国県支出金・負担金等がございまして、その額が約7億3,000万円というようなことでございますので、控除しますと6億3,600万円余りが実質の滞納額ということになるかと思えます。

続きまして、10ページ、11ページをご覧くださいと思います。歳出でございすが、歳出は労働費、農林水産業費、教育費、災害復旧費が減額となっております。一方、総務費、民生費、土木費、消防費などが増額となりまして、全体としましては22億984万8,000円、4.9%の増ということになっております。

主な歳出額の増減で申し上げますと、2の総務費が昨年度よりも12億7,000万円ほど増えております。これは、ふるさと納税の増に伴いまして地域振興基金への積立て、それと返礼品の発送の委託料等で約5億8,000万円の増加、それと専門職大学の土地取得費及び寮となる敷地、旧職業訓練校と言ったところですが、そこの建物解体経費等で約6億6,000万円の増加というようなことになっております。4の衛生費ですけれども、昨

年度と比較しまして約2億3,500万円の増となっております。これは公立豊岡病院組合への負担金が約3億900万円増額になったことによるものでございます。9の消防費ですが、昨年度と比較しまして約2億9,500万円の増となっております。これは、防災行政無線整備事業が約2億6,000万円の増額になったことによるものでございます。10の教育費が、昨年度よりも約2億9,300万円減となっております。これは、小学校の空調整備、これが2018年度からの繰越事業なんです。これが約4億2,000万円増額している一方で、出石野球場の整備ですとか玄武洞スポーツ公園の整備が終了いたしまして、これ両方合わせまして約7億7,400万円の減となっております。これらのことによりまして2億9,300万円の減というようなことでございます。

11ページの列の中ほどでございす。翌年度繰越額でございすけれども、一番下の翌年度繰越額の歳出の合計13億8,581万5,000円、この金額を翌年度に繰り越すものでございます。その右側の不用額が13億7,751万4,205円、これによりまして、先ほど申し上げました実質収支額が約12億円の黒字という要因となっております。でございます。

続きまして、主な財政指標につきまして、概要を説明させていただきたいと思いますが、別途配付いたしております令和元年度豊岡市決算の概要ということで、今タブレットに映していただいているようすけれども、その21ページに2017年度から2019年度主要な財政指標等（普通会計ベース）というものを記載しております。これは、一般会計に診療所事業と霊園事業の特別会計を加えるなど調整を行ったもので、これを普通会計というふうに呼んでおります。その表の真ん中あたりにあります経常収支比率でございす。2019年度は93.4%となっております。2018年度が90.5%ですので、2.9ポイント悪化しているというようなことになります。これは、2019年度の歳入のうち、経常一般財源というものが284億5,

045万6,000円という数字でございますが、これが昨年度と比較しまして4億9,516万2,000円減額となっております。主な理由としましては、普通交付税が約2億円の減、臨時財政対策債が約3億3,000万円の減というようなことが要因となっております。一方、歳出ですけれども、経常一般財源を充当いたします経常的経費、これが265億7,616万5,000円という数字なんです、こちらも3億4,911万7,000円増となっております。分母が減って分子が増えているということございまして、数値が悪化しているということございまして、この歳出のほうが増えました理由としましては、先ほども申し上げました公立豊岡病院組合の負担金等の補助費等が約3億5,000万円増額になったことによるものでございます。結果といたしまして、経常一般財源、分母のほうは1.7%減少、経常一般財源を充当する経常的経費、分子のほうは1.4%増ということになりまして、2.9ポイント経常収支比率が悪化したという結果となっております。

その下に実質公債費比率、将来負担比率等ございますが、明日の健全化判断比率の報告でご説明をさせていただきますと思います。

今ご覧いただいております豊岡市決算の概要という資料につきましては、財政用語の解説なども含んでおりますので、また後ほどご清覧いただきたいと思います。

一般会計の概要につきましては、以上のとおりでございます。

続きまして、財政課分の説明をさせていただきますと思います。

決算書のほうにお戻りいただきまして、まず97ページをご覧いただきたいと思っております。97ページの3段目になります。一番下の段といいますか、その一番上に財政管理費470万1,031円という数字がございます。この中の業務委託料の財務会計システム改修業務51万7,000円というのがございますが、これが2019年度新規でございますが、会計年度任用職員制度が今年度から導入され

ておりますが、それによりまして歳出科目、節の7賃金というのがございましたが、これが廃止になりまして、8節以降が繰り上がるというようなことになっております。このシステム改修に要する経費でございます。

続きまして、101ページをご覧いただきたいと思っております。ちょうど真ん中あたりに土地管理費がございます。この土地管理費の中の下から6行目に設計監理というのがございまして、214万3,800円、これが竹野地域にあります旧竹野いこま荘の解体工事に係ります設計監理委託料ということでございます。これにつきましては、今年度解体工事費を予算いただいております、明日12号補正の増額をお願いするものでございまして、また明日ご説明をさせていただきますと思います。

次に、103ページをお願いいたします。上から11行目になりますけれども、基金管理費でございます。その基金管理費の一番上にございます財政調整基金積立金1億2,743万円のうち1億円が財政課分でございます、特別交付税等の確定に伴いまして、専門職大学に対して行う8億円の寄附に備えて、事前に基金へ積立てを行ったというものでございます。2019年度が2年目ということでございまして、2億円積み立てられたということになります。それから、同じページの下から9行目になりますが、公共施設整備基金積立金4億2,000万円でございますが、これが2018年度からの繰越金の確定に伴いまして、歳計剰余金の処分としましてこちらの基金のほうに積み立ててあるというものでございます。

少し飛ばさせていただきます、440ページ、441ページをご覧いただきたいと思っております。一番上の土地取得費でございます。1億1,279万7,888円のうち、財政課分は5,574万8,501円でございます、土地開発基金で所有している用地を2件買い戻したのものによるものでございます。1つは、竹貫の太陽光発電の収益によりまして土地開発基金のほうから土地を買い戻すという分でございます、それが3,154万5,000円

でございます。今回、面積にしまして2, 118.8平米を買い戻すことができました。この土地につきましては、全体で3万1, 394.53平米ございまして、2019年度末で36%の土地が買い戻すことができたというような状況でございます。もう1件は、日高町江原の土地を2, 420万3, 501円で買い戻したものでございます。

それから、そのページの一番下に予備費がございまして、440ページの真ん中あたりにマイナス表示している部分がございます。2, 934万1, 000円でございますけれども、これが予備費を流用した額ということになります。公共土木施設災害復旧事業費の工事費をはじめ、20件にこの予備費を充用いたしております。

続きまして、歳入でございますけれども、20ページまで戻っていただきたいと思っております。20ページのちょうど真ん中ぐらいにあります2款の地方譲与税から24ページの最下段までですけれども、最下段にあります交通安全対策特別交付金、ここまでが財政課が所管している歳入でございます。

まず、21ページをご覧くださいまして、一番下にあります森林環境譲与税2, 970万1, 000円でございますけれども、これが2019年度からの譲与税ということで、新規の譲与税ということになります。

23ページをご覧くださいまして、23ページ、下から2つ目に地方消費税交付金が14億4, 719万円ということで、前年度と比較して5, 574万1, 000円、3.7%の減となっております。

次に、25ページでございます。上から2つ目に環境性能割交付金というのがございますが、これが2, 114万8, 000円でございますけれども、これも2019年度からの交付金で、いわゆる皆増ということになります。その2つ下に子ども・子育て支援臨時交付金がございますが、これが幼児教育・保育の無償化によるものでございまして、2019年度のみ交付金ということでございます。1億1, 926万円ということでございます。

それから、ちょっと飛ばさせていただきます、57ページをお願いいたします。一番上に土地売却収入が1億4, 665万7, 123円ということでございますが、このうち財政課分としましては8, 743万9, 410円でございます、主なものとしては、城崎町湯島の土地を約1, 600平米ございまして、約6, 900万円で売却しております。また、出石町森井の土地、約7, 700平米を780万円で売却したことなどによるものでございます。

それから、61ページをご覧くださいまして、下から2番目にあります太陽光発電事業特別会計繰入金でございます。このうち、先ほど申し上げました竹貫の太陽光発電に関するものというのが3, 154万5, 000円と。こちらの繰入金を財源といたしまして、土地開発基金から土地を買い戻しているということになります。

それから、63ページをご覧くださいまして、一番上にございます財政調整基金の繰入金4億1, 432万2, 000円ですけれども、このうち2億9, 700万円が財源不足のため取り崩したものであるということでございまして、この2億9, 700万円はいわゆる繰入金が返せなかったとか、消せなかったということになります。

それからその下にあります市債管理基金の繰入金が4億5, 011万7, 000円ということでございますが、平成25年度の同意がありましたのじぎく債の返済に3億円、それと庁舎整備事業の起債の償還に充てるため1億2, 200万円を繰り入れたものなどによるものでございます。それ以外に2, 811万7, 000円でございますが、繰上償還のための取崩しと過疎ソフト事業の借入れに係る交付税未算入分の償還に充てるため、基金に積み立てていたものを取り崩すというものでございます。

それから、飛んでいただきまして、財産関係でございます。608ページ、609ページをご覧くださいまして、まず、土地でございますけれども、行政財産の土地につきましては、608ページの真ん中あたりの小計欄でございます。決算年度中

に小計の欄ですけれども、4,787.08平米の減となっております。こちらの内訳は、後ほど610ページ、611ページでご覧いただきたいと思っております。

行政財産の建物につきましては、609ページの左側中段でございます。木造分の延べ床面積は1,424.62平米が年度中に減少、また非木造の建物の面積は決算年度中に9,588.66平米減となっております。内訳につきましては、612ページ、613ページに記載をいたしております。

また、表の下段の普通財産ですけれども、土地につきましては下から2段目の小計の欄ですけれども、608ページの方ですね、年度中に4万8,849.03平米の増というふうになっております。建物につきましては609ページですが、木造分で年度中に626.54平米の増、非木造につきましては4,565.53平米の増。内訳は、それぞれ614ページから617ページに記載をいたしております。

財政課分ですけれども、614ページ、615ページをご覧いただきたいと思えます。まず宅地につきましては、上から7行目に旧豊岡警察署桜町派出所用地、その2行下にあります旧出石給食センター、その6行目、7行目の下にありますが、旧鴻泉荘跡地、その8行下に旧但東町織物総合センター、これらにつきましては、民間等に売却いたしております。次に、山林の上から5行目の森井山開発用地、雑種地の上から4行目の国道426号豊岡バイパス、これらが民間に売却したものでございます。

次に、616ページ、617ページをご覧いただきたいと思えます。普通財産の建物でございますが、616ページの木造の一番上の旧職業訓練校、それと617ページの非木造の1行目から7行目に旧職業訓練校でございますが、これが専門職大学の寮になるところでございます。取壊しを行っているものでございます。

617ページの旧職業訓練校の下に旧但東町織物総合センターというのがございますけれども、先ほどの土地と一緒に民間へ建物つきで売却したものでございます。

620ページをご覧いただきたいと思えます。出資による権利でございます。財政課所管分は上から3段目、3行目と申しますか、土地開発公社の出資金、それから10段下になるんですけども、地方公共団体金融機構の出資金、2件ありますけれども、前年度からの変動はございません。

続きまして、623ページをご覧いただきたいと思えます。基金でございます。基金につきましては、出納整理機関という概念がございませんので、3月末日で一旦取りまとめておまして、次ページ、624ページに参考債権というふうに書いておられますが、これがいわゆる出納整理期間中に処理したものでございます。そこに5つ基金がございますが、これらがその期間に増減があったものということになります。

財政課所管分につきましては、623ページ、1段目の財政調整基金、その下の市債管理基金、その2つ下の公共施設整備基金、そして下から7行目になります土地開発基金、これらが財政課の所管でございます。年度末現在高は記載のとおりということでございます。

624ページの一番下の表で、不動産の土地開発基金のところがございます。土地の動きにつきましては、そのようなことでございます。

大変長くなりましたが、財政課からは以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、安藤議会議務局次長。

○事務局次長（安藤 洋一） それでは、ここから議会議務局のほうの説明をいたします。

まず、歳出についてご説明いたします。決算書の87ページをご覧ください。最初に議会費から説明いたします。まず、人件費です。人件費のうち、議員等に係る人件費については、議員報酬、参考人報酬、議員期末手当、議員共済組合負担金、非常勤職員公務災害補償保険料で、合計1億8,798万9,874円となっております。前年度決算額と比較しますと、218万8,984円の減額となっております。次に、真ん中あたりの議会管理費について説

明いたします。総額で前年比で9万6千7,341円の増額となっております。次に、下から4行目の議会運営活動費について説明いたします。総額で前年比で5万6千4,862円の増額となっております。

続きまして、歳入の説明に入ります。65ページをご覧ください。預金利子についてのみでございます。表示されております金額のうち、7円が議会事務局に関する分でございます。

説明は以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、山口秘書広報課長、お願いします。

○秘書広報課長（山口 繁樹） 決算書の91ページをご覧ください。中段の少し下にあります秘書渉外費でございます。前年度比較で3万4千7,134円の増となっております。これにつきましては、普通旅費の増や災害見舞金の支出が2件あったことによる交際費の増が主な要因です。

続きまして、同じページの最下段から93ページ上段にかけての表彰栄典費でございます。功労者表彰や感謝状贈呈のための経費です。これにつきましては、前年度比較で8万5,881円の増となっております。感謝状贈呈者の2名の増などが要因です。

続きまして、97ページをご覧ください。上段少し下の広報広聴事業費でございます。市広報等の発行や市ホームページの管理のための経費です。これにつきましては、前年度比較で1,524万3,088円の減となっております。一昨年度に市のホームページシステムをリニューアルしておりまして、これに係る業務委託料が前年度は純減となっていることが主な要因です。

続きまして、107ページをご覧ください。最上段の多文化共生推進事業費でございます。民間の国際交流団体での日本語教室運営への補助金などです。これにつきましては、前年度比較で7万9,681円の増で、事業内容の大きな変更点等はありません。続きまして、そのすぐ下の国内交流推進事業費でございます。これにつきましては、姉妹都市上田市への市民バスツアーのない年でございましたので、前年度比較で9万5,700円の減となってお

ります。

続きまして、歳入について説明いたします。69ページをご覧ください。雑入のうち、上段の広告料でございます。このうち秘書広報課の所管であります市広報での広告料が1万7,400円の増、市ホームページでの広告料が16万6,000円の減で、トータル14万8,600円の減となっております。事業内容の変更点等はございません。

続きまして、一番最後のほうです。619ページをご覧ください。有価証券でございます。上から3つ目、株式会社FMたじまに500万円ございまして、前年度からの増減はございません。

秘書広報課は以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、井上政策調整課長、お願いします。

○政策調整課長（井上 靖彦） 政策調整課のうち、行革以外の部分についてご説明いたします。

105ページをご覧ください。105ページの中段から少し下にあります企画調整費2,834万5,036円です。これは、定住自立圏構想、広域連携、国県要望などに係る事務費です。主な支出は負担金となっております。

次に、111ページをご覧ください。上段のほうにございます地方創生推進費115万7,093円でございます。政策調整課の所管分で、第2期総合戦略の策定や人口ビジョンの修正に係る専門家の分析費、地方創生戦略会議の開催費、全体調整等に係る事業でございます。30年度はジェンダーギャップ解消を研究する費用をこちら政策調整課で持っていましたので、30年度と比較しますと約127万円の減額となっております。

続きまして、113ページをご覧ください。中段の戦略的政策分野の研究費677万1,571円です。負担金の地域研究事業費150万円は、SDGsの視点による住み続けるまちづくりの研究で、但東中学校をフィールドに、慶應大学と実施した費用でございます。その下、外国人住民に関する調査研究事業489万9,863円は、市内在住の外国人へのアンケートやヒアリング、また市内事業者へ外

国人雇用に対するアンケートとヒアリング等の調査分析を神戸大学と一緒に行ったものでございます。30年度と比較しまして、約228万円の増額となっております。

続きまして、歳入をご説明させていただきます。40ページ、41ページをご覧ください。下段のほうにございます国庫補助金の20目地方創生推進交付金8,524万4,749円です。30年度と比較しまして5,301万2,850円の減額となっております。減額となった理由につきましては、交付対象期間が終了した事業というものが2つありまして減額となっております。2019年度につきましては、地方創生総合戦略に掲げた事業のうち、観光地マーケティング事業、コウノトリ育むお米ブランド化推進事業等29事業に対して、対象経費の2分の1の交付を受けております。

次に、50ページ、51ページをご覧ください。最下段の県補助金、13目ひょうご地域創生交付金でございます。5,440万4,000円です。この交付金は、国の地方創生推進交付金に該当しない事業を県が独自に支援するもので、婚活イベント、結婚相談所の機能拡充等30事業につきまして、対象経費の2分の1の交付を受けているものでございます。以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、若森政策調整課参事、お願いします。

○政策調整課参事（若森 洋崇） 政策調整課の事務のうち、行財政改革部分についてご説明を申し上げます。

89ページをご覧ください。中ほど人件費のうち、行財政改革委員会委員でございます。24万円でございます。行財政改革委員会を6回開催しました。その委員報酬でございます。

次に、95ページをご覧ください。事業としては上から2番目、場所は中ほどちょっと下です。行革推進事業費61万8,581円でございます。これは、先ほど申し上げました行財政改革の委員会の費用に係るものとK A I Z E Nミーティングに係るものです。続きましてその下、戦略的政策評価事業

費320万5,078円でございます。この費用は大きく分けて2つ、1つは戦略評価の職員研修に係るもの、もう一つは政策モニタリング調査と呼んでおりますけども、市民意識変化のアンケートに係るものでございます。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、土生田政策調整部次長。

○政策調整部次長（土生田 哉） 91ページをご覧ください。私どもの組織は、昨年4月、財政課のほうから公共施設マネジメントに関する事務というのを引き継いでおります。ここの中の一般管理費、12行目でございます。公共施設マネジメントシステムの保守点検、ここの中では、昨年10月に公共施設カルテのほう作成いたしまして、279施設の利用状況等をホームページのほうで公開をいたしております。

続きまして、95ページをご覧いただきたいと思っております。下から3行目、公共施設マネジメント推進事業費でございます。こちらのほうも、財政課から引き継いだ業務でございます。昨年の10月10日から10月24日にかけて、市内6会場で公共施設のあり方を考える市民懇談会を開催させていただき、487名の市民の方にご参加をいただいております。それから、昨年度業務として予算は直接伴っておりませんが、地区集会施設の譲与、各振興局の地域振興課の方々にご尽力をいただき、各地区と協議をいただきまして、17施設を地区のほうに早期に譲与できたというものでございます。

説明は以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、原田防災課長。

○防災課長（原田 泰三） それでは、343ページをお開きください。ちょうど中段あたりに非常備消防事業費というのがございます。特に変わってるといいましたら、消耗品費のところでございますが、昨年度につきましては消防団員の方々に長靴を新調いたしておりまして、その関係が1,000万円ほどかかっております。ほかは増減等は特にはございません。それから、その下段のほうなんですけど

も、同じく事業用備品ということで若干の差がございますが、これにつきましては、昨年度につきましては豊岡団の2分団、それから日高、それから出石で消防ポンプ自動車、それから竹野団で2分団、小型動力ポンプを整備しておる関係でございます。

続きまして、345ページ、中段のあたりでございます。防火水槽整備事業費というのがございます。30年度と比較いたしますと720万円ほどの増となってるんですけども、昨年度につきましては日高の万劫区に防火水槽を1基新設している関係がございます。

続きまして、飛びますけども347ページをお開きください。災害対策事業費というのが中段あたりにございます。下から6行目ぐらいに整備工事費というのがございますが、こちらの内容につきましては、災害時に国交省の豊岡河川国道さんの災害対策本部の中で常時監視されてる河川監視モニターというのがあるんですけども、その映像のうち、私ども豊岡市のほうの都市整備部が実際現場なんかに直接豪雨の中、出動したりとか電話で問い合わせたりとかして話してコミュニケーション取りながら情報収集してるような樋門の水位だったり、そういったものがリアルタイムで映像が見れるというようなことで、国交省と豊岡の河川国道事務所と豊岡市の市役所の中の都市整備部とか、そういったところとつなぎまして映像を配信できるように整備したというような内容でございます。

続きまして、349ページの中段のあたりに防災行政無線の整備事業費がございます。先ほど財政課長のほうからもありましたように、ちょうど中段ぐらいに整備工事費ということで5億6,000万円ほどあるんですけども、こちらにつきましては、全体整備工事費のうちの令和元年度分5億円、それからあとデジタル防災行政無線と消防指令台との連携工事などの費用となっております。進捗的には、元年度末で全体の95%の進捗となっております。順調に進捗しているということでございます。同じく令和元年度末での戸別受信機の交換の進捗率は、その時点では約7割というような状況でござ

いました。

続きまして、今度は歳入のほうで、51ページをお開きください。下から2項目めに、少額なんですけど防災と福祉の連携促進モデル事業というのとマイ避難カード支援モデル事業というのが2つございます。ちょっと簡単に説明させていただきますと、上のほうの防災と福祉のほうにつきましては、兵庫県が昨年度、避難行動要援護者の個別支援計画の策定促進を目的に、豊岡市をモデルケースに選定して補助事業を行ったというようなものでございます。具体的に言いますと、防災課とか健康福祉部、それから社会福祉協議会、それから地域の自主防災組織、それから実際にサービスを受けられているところのケアマネジャーさんとかサービス事業所なんかとが連携をしまして、該当する方の避難計画を作成するというような内容でございました。これに係るケアプランの作成費等でございます。それから、下段のマイ避難カードのモデル事業につきましても、兵庫県が推進するいわゆる個人個人のいつ誰が誰とどこに避難する、何を持って避難するというようなカードを、カード形式でそういったマイ避難カードというものを作成するというような取組でございまして、令和元年度につきましては豊岡の奈佐地区と、それから城崎地域とでまず実施をしたということで、今後また引き続き地区コミュニティ単位でこの普及啓発を図っていきたいというふうに考えております。

簡単ですけども、以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 引き続き、土生田コミュニティ政策課長。

○コミュニティ政策課長（土生田祐子） 119ページをご覧ください。上から6行目です。まちづくり推進事業費の中の参画と協働推進事業費22万円です。昨年は市民の視点に立った伝え方ということで、若手職員に研修を行っております。

続きまして、153ページをご覧ください。5行目です。地域コミュニティ推進費1億5,653万6,412円の内訳を説明させていただきます。中ほどかなり下、共同研究50万円というこ

とで、島根大学との共同研究は平成29年度から3か年で昨年終了したところ。続いて、下段に移っていただきまして、コミュニティづくり交付金1億4,224万1,219円なんですけれども、昨年比といたしましては、417万円の増となっております。続きまして、少し下に移っていただいて、コミュニティセンターの管理費です。管理費は6,947万9,754円となっております、昨年比約2,570万3千円ということですので、大きな減額の理由は、施設の大規模修繕を実施していないため減額となっております。

続きまして、歳入に移っていただきます。29ページをご覧ください。上から5段目の8行目になります。コミュニティセンター使用料です。528万8,980円ということで、昨年度よりも39万7,879円の増となっております。その前年には度重なる台風、豪雪などがありましたけれども、順調に稼働していたということになります。

それから、63ページをご覧ください。下の段のほうから数えていただきまして、7段目です。地域振興基金繰入金ということで、この金額のうち700万円がコミュニティ関係になっていきます。

それから、85ページをご覧ください。一番最後の段ですけれども、過疎対策事業債の中の3,540万円がコミュニティ関係の分となっております。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 次に、谷垣城崎振興局地域振興課長。

○城崎振興局地域振興課長（谷垣 一哉） それでは、恐れ入りますけれども、決算書の134ページ、135ページをご覧ください。それでは、134ページ、135ページ下段の城崎振興局費に係る決算について説明いたします。内容につきましては、135ページ、備考欄、下から12行目から137ページの中段付近の自動車管理費まででございます。135ページの庁舎管理費ですが、総額で2,516万3,012円の執行となっており、前年度と比較いたしまして1,339万5,000円余りの減額

となっております。主な要因といたしましては、137ページの上から13、14行目でございます補修工事費、庁舎の項目です。補修工事の内容でございますけれども、庁舎建設後の経年劣化に伴います庁舎駐車場の舗装及び消雪装置の補修工事、また外壁の塗装並びに高圧受電設備等の各種電気設備補修工事に総額で1,339万5,000円余りを執行しております。そのほかの項目につきましては、振興局の事務並びに庁舎の維持管理に関する経常的な経費でございます、例年並みの管理などに係る必要な経費を支出いたしております。次に、同じページの上から16行目の自動車管理費でございます。総額で117万4,889円の執行でございますけれども、リース車4台を含む城崎振興局で管理しております公用車11台の管理費でございます。これにつきましても、例年並みの管理に係る必要な経費を支出いたしております。

次に、歳入でございますけれども、歳入の予算科目並びに金額ともに、前年と大きな変動はございません。

城崎振興局からは以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、山根竹野振興局地域振興課参事。

○竹野振興局地域振興課参事（山根 哲也） 137ページをよろしくお願いたします。137ページ、一番下の枠になります竹野振興局費の中の庁舎管理費ですけれども、次のページ、めくっていただきまして、139ページの上から15行目、こちら補修工事費というのがあります。こちらにつきましては、耐用年数が経過いたしました庁舎の高圧受電設備の改修工事費によるものでございます。そのほかは、竹野振興局通常経費ということで、光熱水費、電気設備、エレベーター等の保守点検、宿日直業務の委託料が主なものとなっております。次、同じ139ページ、上から17行目、自動車管理費につきましては、振興局管理公用車7台の管理費となっております。

少し飛びます。381ページをお開きください。真ん中のやや下のあたり、仲田光成記念全国かな書

展開催事業費、こちらの主な内容ですが、人夫賃というのがありまして、こちらは作品整理のために雇い入れました臨時職員さんの3か月分の賃金です。報償金は、応募作品審査のための審査員報酬でありまして、費用弁償は審査員の旅費となっております。

続きまして、歳入についてご説明をいたします。57ページをお願いいたします。一番上、土地売払い収入1億4,665万7,123円、このうち旧森本中学校跡地の売払い分としまして2,907万3,904円というのがあります。

続きまして、77ページをお願いいたします。77ページの下から17行目、美術展等出展料の中の全国かな書展122万1,900円は、仲田光成記念全国かな書展への出展料及び表具料の負担金として、前年度から出展数は182点減りましたことにより、25万600円の減となっております。

竹野振興局分は以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、中川日高振興局地域振興課長。

○日高振興局地域振興課長（中川 光典） それでは、141ページをご覧ください。備考欄上段あたりなんですけども、庁舎管理費です。消耗品費につきましては今回多額の金額となっておりますが、このうち約99万円につきましては、庁舎建物周辺に使用するグレーチングを消耗資材として購入したものです。その下の修繕料につきましては、1階男子トイレやエレベーターの修繕を行ったものです。中段あたりの投資委託料につきましては、主に長寿命化工事全般の管理費です。そのさらに下のほうですが、整備工事費につきましては、日高庁舎長寿命化改修工事として、庁舎外壁の修繕塗装や2階の空調設備工事、それから職員駐車場の区画線工事を行ったものです。続きましてその下、自動車管理費です。リース車6台を含む日高振興局管理公用車11台分の管理費です。例年どおりの管理で、特別なことはございません。

続きまして、歳入についてご説明いたします。73ページをご覧ください。上から7行目の日高庁舎の光熱水費等使用者負担金ですが、昨年度から庁舎

2階に豊岡市商工会が入居しております。この分の増額、約110万円増額しております。

私からは以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、今井出石振興局地域振興課長。

○出石振興局地域振興課長（今井 謙二） 105ページをご覧ください。上の枠の中ほどの財産管理費です。このうち81万9,833円が、出石庁舎駐車場と市道内にある土地の所有権移転登記費用です。裁判所へ50万4,153円、登記業務委託料として30万5,360円などを支出しております。

次に、143ページをご覧ください。下の枠の庁舎管理費です。2,850万4,349円の支出で、前年より約560万円の増となっております。主なものとして、下から11行目の出石庁舎長寿命化計画策定のための業務委託料を733万9,200円、その6行下の補修工事費が庁舎屋上の防水改修や土間の修理など、出石庁舎修繕工事に575万3,000円を支出しております。

次に、389ページをご覧ください。下のほうの出石永楽館歌舞伎開催事業費です。12回目の昨年度は、11月4日から10日までの7日間、全13回公演で実施しました。支出総額は7,578万8,798円で、前年より約350万円の増となっております。主なものは、その4行下、印刷製本費が315万7,276円、番付やチラシ等の印刷費です。その3行下、手数料が390万4,777円、チケット販売や新聞折り込みの手数料です。下から2行目、歌舞伎公演の業務委託料が5,390万円、松竹への委託料です。

次の391ページをお願いします。一番上の自動車借り上げ料が258万6,040円、役者やスタッフ等の関係者の移動用バスの借り上げ料です。次の建物借り上げ料が691万9,257円、関係者の宿泊費用です。以上の支出をしております。次に、同じページの上から8行目、伝統的建造物群保存地区保存事業費です。支出総額は2,920万2,887円で、前年より約1,080万円の増となっております。主なものとしましては、ページの中ほどに

ある補助金2,652万6,000円で、特定物件の修理事業4件に対するものです。

次に、歳入についてご説明します。41ページをご覧ください。中ほど少し下の社会教育費補助金の中の4つ目の項目です。重要伝統的建造物群保存地区保存修理費補助金1,330万8,000円は、修理事業4件分に係る国庫補助金で、補助率は2分の1です。

51ページをお願いします。中ほどの社会教育費補助金の3つ目の項目、同じく重伝建の保存修理費補助金665万4,000円は、修理事業に係る県の補助金で、補助率は4分の1です。

次に、63ページをご覧ください。中ほど少し下のほうになります。地域振興基金繰入金ですが、このうち140万円が永楽館歌舞伎開催事業の分となっております。

次に、69ページをご覧ください。上から6行目、広告費のパンフレットのうち、60万円が永楽館歌舞伎の番付の広告料です。その下の頒布代の書籍等の中で、106万6,000円が歌舞伎の番付の販売収入です。

次に、77ページをご覧ください。上から2行目の歌舞伎開催事業の協賛金53万3,000円は、観光協会等からの協賛金に出石まちづくり公社から子供の割引減収分に対する一部補填を含めたものとなっております。その4行下の永楽館自主事業補助金365万8,000円は、日本芸術文化振興会から受けたものです。その11行下の兵庫県市町村振興協会市町交付金のうち、1,884万円が歌舞伎開催事業分となっております。その8行下の永楽館の入場料4,969万2,000円は、歌舞伎公演チケット販売の収入です。

次に、608ページをご覧ください。財産に関する調書の一番上の段です。本庁舎の土地137.75平米の増加についてです。次の610ページ、611ページをご覧ください。土地に関する調書の一番上のところになります。出石庁舎敷地に係るもので、庁舎南駐車場内に登記上個人名義の用地が残っていることが判明したため、所定の手続を踏み、時

効取得による所有権移転登記手続が完了しましたので、今回台帳に記載しています。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、大石但東振興局地域振興課長、どうぞ。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 145ページをお開きください。備考欄中ほど、庁舎管理費、但東地域振興課をご覧ください。1,732万3,784円を支出しております。前年度に比べまして22.3%の増額となっております。これは、庁舎の非常用発電機の改修を行ったことによるものです。そのほかにつきましては、経常経費となっております。

147ページ、次のページをご覧ください。自動車管理費としまして133万8,448円は、公用車の管理経費となっております。

続きまして、403ページをご覧ください。中ほどに但東市民センター管理費266万4,871円、これにつきましては、但東市民センターの管理に係るものでございます。

歳入につきましては例年と大きな変動がございませんので、以上で報告を終わらせていただきます。

○分科会長（伊藤 仁） 説明は終わりました。分科会を暫時休憩いたします。

再開は10時50分。

午前10時40分 分科会休憩

午前10時50分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 休憩前に引き続き分科会を再開いたします。

質疑はありませんか。

足田委員。

○委員（足田 仁司） 113ページの政策調整課分になるんですかね。外国人住民に関する調査研究費として480万円余りの決算なんですけど、前にもお尋ねしたのかな、市内の外国人の数と、それから調査した項目、アンケートなんかでしたらどんなことを尋ねたのか、ちょっと概略教えていただけたらと思います。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○政策調整課長（井上 靖彦） 人数ですけれども、このとき調査をした人数は七百数名でございました。全員に対してアンケート調査を行っております。現在では800人ぐらいに増えております。

アンケートの内容でございますが、実際に何年ぐらい日本に住んでいますか、豊岡市には何年ぐらい住んでいますか、あるいは友達はいいますか、友達は日本人の友達ですか、もしくは外国人の友達ですかというようなところを在住の外国人に調査しております。なかなかそこで十分聞き取れなかった分については、個別に数名をヒアリングして、実際に話を伺いながら調査をしたということでございます。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） その調査をした結果、何か報告書みたいな成果物は出ていますか。例えば調査することによってつかんできたというか、明らかになってきた課題があれば教えてください。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 報告書につきましては、大学と共同で作ったもの、結構分厚いものですが、それと、概要版等をホームページで公開をさせていただいております。

課題等ですけれども、分かったことは、やはり多様な方がいらっしゃると。これまでですとお金を稼ぎにとか技術を習得しにという方が多いように感じておりましたが、そういう方々だけでなく、やはりインターンシップで来られたり、就職というか、自分がこういうふうに働きたいからというようなことで来られた方というような方が大勢いらっしゃるなということが分かりました。

一方、そういった方々が実際に今度新しく来られた外国人の方の先生役になったり支援をする側にもなれるんじゃないかというようなところを神戸大学からの提言としていただいているところでございます。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） これから人口減少が進むと、

外国人がその分たくさん入ってくると思われそうですけど、豊岡で外国人を受け入れるための何か政策というか、テレビなんかでドキュメンタリー番組なんかで見ますと、やっぱり言葉の問題で、外国の人に日本語を学んでいただく、早く習得していただくということがすごい大事だと思いますし、それぞれの地域、住んでる地域でちゃんと受け入れてもらえるかどうかというのも課題になってくると思いますけど、そういったことを政策に反映していかないとあかんのかなと思います。そういった考えとか、もしありましたら教えてください。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 昨年そういった住んでいる方の調査をさせていただいて、あるいは地域の方の話も聞いたり、あるいは雇用されている、雇用していない市内の事業者の方の意見も聞いております。今年度は、昨年できなかった外国にルーツを持つ子供の調査をしようと思っております。この辺りで豊岡市の置かれている外国人に対する課題ですとかをもう少し洗い出しをしながら、コロナの関係がなければ今年度中にそういった戦略を立てて、どうやったら外国の方がこの豊岡で地域の一員として一緒に暮らしていけるかというところを戦略的に考えていこうということを考えております。今後また支援団体ですとか企業の方や実際外国人の方も入っていただいて、あるいは市役所の中の外国人に関する部署も入って、一緒になって考えていきたいというふうに思っています。

ちょっと大学との共同研究で、コロナの関係でできておりません。9月ぐらいから徐々にそういった再度の調査ですとか、あるいは話合いの機会を設けていきたいというふうに思っております。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） 今ニュースで取り上げられてる大坂なおみ選手が、今課長が言われたルーツが、外国のルーツを持つ日本人としてテニスで優勝したと。感覚的に、何かネット上でも日本人という受

け止めが不十分な感じと、それから彼女がやっ
てる取組がどんだけ理解されてるかという、それは取り
も直さず、外国から日本に入ってきた人たち全部に
当てはまっていくように思うので、受け入れる側の
意識をこなしていくというかね、そっちのソフト面
にも十分力を入れていかないと、上っ面のお友達だ
けで終わったんじゃ駄目だろうなと思うので、ぜひ
頑張ってくださいと思います。何かコメントが
あれば。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○政策調整課長（井上 靖彦） 先ほど議員のほうか
らありました、取りあえず言葉の壁というような問
題、すぐにでも解決できそうな問題もありますし、
やはり地域の一員として外国人が暮らしていこう
と思うと、地域の考え方というものを変えていく必
要があるのかなというふうに思ってます。ジェンダ
ーギャップと同じで、なかなか皆さん、住民の意識
を変えろというのは難しいと思います。できるところ
は早く取り組んでいって、長期にわたるとこも出
てこようと思いますけれども、その辺りを戦略でつ
くって進めていきたいなというふうに思っております。

○分科会長（伊藤 仁） ほか、ありませんか。

奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） 今の外国人の関係でちょっと
教えてみてもらう。大きな工場に外国の方の労働者
をかなり雇い入れているところというのは、結構事
業所があるように思うんです。そういうところで、
私の住んでいる近くにも寮があったりして、よく通
ったりしてますけど、自転車。何人ぐらいいるのか
いうことは把握はしてませんが、せっき日本
に来て働いておられるわけですけども、いわゆる日
本の文化だとか、あるいは暮らし、その他、どうい
う形で交流をしたり、また集まったりとかするよう
なことはあるのかどうか。個々に来てる人で日本語
を教えますよというところはあるんですけども、
全体として何かそういう把握されて、せっき日本
に来ておられる、豊岡に来ておられるわけですから、
それなりの何か取組といたしますかね、そういうもの

があるのかなのかという点。十分人数は把握され
てるとは思いますけども。分かりにくい質問で申し訳
ないけども、どうでしょうか。

○分科会長（伊藤 仁） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 昨年の調査では、そ
こまで全てをはっきりと分かりませんでした。けれ
ども、聞き取りによりますと、やはり企業さん、特
に漁協さんあたりは、地域の人と一緒に運動会に
出られているところもございますし、ある企業
では、全く地域とのつながりがないので、そうい
ったつながりを持ちたいというような意見もござい
ました。

全体としてこれからどんなことができるかとい
うのは先ほどのありましたようにこれからになる
んですけれども、国際交流協会ですとか、にほんご
豊岡あいうえおというところも、いろいろ交流の場
を設けておられるというふうに認識はしておりま
す。

○分科会長（伊藤 仁） はい、どうぞ。

○委員（奥村 忠俊） なかなか難しいことだと思
うんです。しかし、自転車で工場に雨の日も雪の日も
通っておられる姿をよく見ますし、出石でも例えば
メイワボックスだとかね、それからもう一つ、桐野
にありますティエスケイ、あの辺にもたくさんの人
が来ておられるように思うんです。なかなかこっち
も道で擦れ違ってね、声をかけにくいもんですから、
勇気がないんでなかなかね。そういう場面がたくさん
あって、スーパーなんか近くにいっぱいあるも
んですから来ておられるんですけども、日本に来て働
いている、そして日本の文化に出会ったり、それか
ら仲間同士で励まし合ったり、またいろんなところ
で友達をつくったというようなことができてるん
かなというふうに思うんです。

毎年予算や、これ見ると外国の人を対象にしたい
いろんな事業のってるんですけども、果たして今言
ったようなそういう企業にかなりの人数で勤めてお
られると思うんですけども、その人たちがどういう形
で日本になじもうとされてるのかなというところ
でちょっと分からないもんですからね、今聞いてみ

ただけど。やっぱり十分把握はできてないということですよ、今。どれぐらい来られてるかな。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○秘書広報課参事（和田 征之） 先ほども政策調整課長のほうが申しましたけども、豊岡市では、にほんご豊岡あいうえお及び国際交流協会のほうに補助をしております。補助額につきましては、それぞれ290万円ずつを補助しております。その目的といいますのが、外国人の生活の安全の充実を図るとともに、互いの違いを受け入れて国際社会を豊岡市も担っていこうというようなことでございます。

実際にその中の対象の事業となりますのは、日本語教室の開設であったりとか、あと日本語指導者の育成、あと日常生活の相談業務などなどがございます。その中でいろいろと、2団体につきましては施策、いろいろな事業もされているところでございます。

ちなみに、日本語教室につきましては、この2つの事業所で1、062回の昨年度日本語教室を開いていただいております。2つの事業所のほうで今後とも豊岡市が補助をしていって、豊岡市の外国との、住民との在り方というものも今後担っていききたいなというふうに思っております。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） 先ほども私聞いたんですけどね、今おっしゃったにほんご豊岡あいうえおだとかというのは頑張っておられますけどね、そこがたくさんの方が来てるのに、みんなそこに行ってやるように思えないもんですからね、そういったところがありますよということであるとか、ここで長いこと働いておられるわけですから、そういう人たちがさらになじんでいただくというようなことになってるのかなというふうに自分としては疑問を持つ。ちょっと分からない部分があるもんですから聞いたんですけどね、今の2つだけの場所じゃなくて、もっといっぱいやっておられるところはあるん違いますかね。個人的にもやってるとこもあったりするし、それは把握してませんか。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○秘書広報課参事（和田 征之） 私どもで把握しているのは2団体ということでございます。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 質問はしませんけども、そういう人がたくさんあると思いますんでね、対象者は、ぜひ広めてもらいたいと思っておりますので、その点お願いしときたいと思います。終わりました。

○分科会長（伊藤 仁） ほか、ございませんか。岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 今の関連のところは今思い出しましたので。今、支援されてるところというのは国際交流協会とにほんご豊岡あいうえおさんということなんですけど、以前ちょっと2つの団体とお話したことがあるんですけども、事務所の場所がにほんご豊岡あいうえおさんは昭和町のところにあるんですね。で、国際交流協会さんは立野の福祉センター、じばさん前ですね、あるんですけども、先ほどからお話があるように、外国人の方っていうのは、交通の便がなかなか、自分の車でどんどん行けるわけじゃないということで、自転車等で行かれることがほとんど。交通機関等って言われてるんですけども、今の事務所っていうのはちょっと路線から離れたところにあるということを知りました。何かの催物するときには、アイティ使ったりとか、ほかのとこ使うんですけども、事務所自体がそこにあるということで、なかなか事務所に外国人の方が行きにくいというような話を、この2団体のほうからちらっと聞いたことがありますので、今アイティの再編って、4階フロア買ってどうのこうのって聞きますけども、できるだけ外国人の方が行きやすいところに、その事務所が開設できるような、もしも配慮ができる可能性があるんだったら、一度また検討していただきたいなと思います。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁……。

○委員（岡本 昭治） いいです、要望でいいです。ご検討いただければ。

○分科会長（伊藤 仁） ああ、そうですか。ほかございませんか。

嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） 95ページの政策調整課、下段のほうですけども、戦略的政策評価事業費というところで、320万5,078円なんですけども、これの説明の中で、職員研修もさることながら、何か政策のモニタリング調査というような言葉が出たんですけども、これはどういうふうな方法で、どういったことでやられてるんか、その辺ちょっと概略説明を。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。
どうぞ。

○政策調整課参事（若森 洋崇） 政策モニタリング調査でございます。いわゆる行政データでは計ることができない市民意識や行動の変化を、定期的、年に1回調査して、その変化をはかろうとするものでございます。2019年度につきましては、2020年1月に実施をいたしました。18歳以上の4,000人を無作為で抽出し、回収率が44.1%でございました。

調査の項目ですが、例えば、あなたは豊岡の自然の中で暮らすことに価値があると感じていますかとか、あなたは豊岡市で子育てをする人は安心して子育てができていますか。あなたは自分が健康だと思えますか。こういったことを調査し、経年変化等を見ております。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） ありがとうございます。これは、一般的に公表はしてますか。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。
若森参事。

○政策調整課参事（若森 洋崇） ホームページとかでは公表しておりませんが、庁内で、政策立案に役立っているところでございます。

○分科会長（伊藤 仁） 嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） ということは、一般には公表してないけれども、内部資料としてはあるということで、その辺は何か閲覧はできるんですか。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。
若森参事。

○政策調整課参事（若森 洋崇） はい、閲覧できま

す。

○委員（嶋崎 宏之） 分かりました。じゃあ、また、参考に見せていただきたいと思います。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） ほかにございませんか。

○委員（足田 仁司） 何でもいいですか。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） 345ページ、防火水槽の整備事業費についてお尋ねします。

防火水槽、よくある容量で40立米ですかね、標準的なのは。それを設置するのに、大体、1件当たりどのぐらいの工事費になるものなのかというのと、これ、順次整備をされてると思いますけども、まだ、豊岡市には整備すべき箇所がどのぐらい残ってるのか、もしあれば教えてください。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○防災課長（原田 泰三） 大体、昨年までの契約の段階では780万円とかそういった金額、750万円とかそういった金額が今の万劫での、実際は900万円ぐらいかかったんですけども、契約の段階では780万円ぐらいだったと思います。場所によって、狭いところに現場打ちをしたりとか、何かそういう工法の変更があったりとか要するような、例えば城崎の町なかの狭いところに入れなくてははいけないみたいなことになると、少し高くなったりとかしますけども、大体その700万円とかそういった金額ではないかと思えます。

それから、実は市街地とか、それこそ城崎なんかもそうだと思うんですけど、いわゆる街区の中っていうのは用地がなくて、なかなか防火水槽の40トン水槽を造るっていうことが、場所的に困難だというようなことがありますもんですから、その水量を補うのに消火栓で何とか対応してるっていうようなことだったり、一昨年ぐらいから街区の消防団とか消防署による訓練なんかも自主防と一緒にされたりとかっていうことで、ハードではちょっとなかなか対応し切れないような地域については、そういった街区の訓練で補ったりとかということで対応してるということです。

今の数なんですけども、今言いましたように、ち

よっと市街地なんかには、恐らくかなり、本来ですと防火水槽が要るんじゃないかということがあるんですけども、今現在、ちょっとどれぐらい、じゃあ、防火水槽の地下式のものが必要なのかっていうことはちょっと把握はしておりません。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） 最近、私の住んでる近くで火災があって、たまたま現場にも駆けつけたんですけど、消火栓はあったんです。地元の人が初期消火に奮闘されて使ってた。ところが消防車が来ると、その消火栓は即消防団に引き継いでいくとなっていて。ですから、第2、第3の消火栓とつながるまでに、かなり時間を要したように見えたので、もし防火水槽が近くにあったら、消防車が来たら、消火栓は消火栓で使って、防火水槽からもすぐ出せたのになとか、展開はいろいろしやすいだろうなと思ったんです。だけど、一応規定の消火栓は整備されています。多分50メートル間隔、離れてるかな。そういう消火栓が既に整備されてるところでも、防火水槽は要望すれば設置可能なのか、可能だとしたら、地元の負担金等があるのかないのか、そういうちょっと制度の概略が分かれば教えてください。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

原田防災課長。

○防災課長（原田 泰三） 実は、今申し上げましたように、要望を、地域によってはなかなか地下式防火水槽が場所的に置くことができないというか、工事が難しいというようなところがあるのが一つ懸案としてはあります。

今、議員おっしゃられました、そうは言っても、やっぱり消火栓だけでは消防水利としては、十分、十二分にあるかといったらそういうわけではございません。ただ、数として消火栓が適正な規則にのっとって配備はされてるけども、今おっしゃられましたような防火水槽がさらにあれば、有効な水利として活用ができますので、そういった空き地といいましょうか、準備いただけるような地区、場所があって、なおかつ消防水利上も不足しているなっていうような現状がありましたら、要望をいただいて設

置するということは検討はできるかと思います。

（発言する者あり）

大変失礼しました。以前はちょっとそういった形で要望いただいて設置をしてたんですけども、先ほど言いましたように、なかなか消防水利の適正配置っていうようなことを考えた場合に、やっぱり専門的な観点から、例えば消防本部さんとかも入って、こういった場所に必要だっていうようなことの、そういったところに設置するというのがより正しいやり方じゃないかということで、今では、すみません、先ほどちょっと私間違えてしまったんですけども、要望を受けて設置するというよりは、適正な場所に、ここに必要かどうかというのを判断して設置するという流れになっております。大変失礼しました。

○分科会長（伊藤 仁） 足田委員。

○委員（足田 仁司） 制度的なもの、いいですか。

○防災課長（原田 泰三） すみません、地元負担はございません。

○分科会長（伊藤 仁） よろしいですか。

○委員（足田 仁司） いいです。

○分科会長（伊藤 仁） ほかがございませんか。

奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） うちの会派としては、毎回、この市民税、固定資産税の関係の超過課税について、もうやめるべきじゃないかということを要望してるんです。今回の決算報告がありましたけども、決して悪い決算ではないということがあるわけで、そういった点で、特に個人に対する超過課税っていうのは、全国でも豊岡市だけだということを前から申してますけども、それについては、もうやめていこうと、廃止していこうというような思いはないのかどうか、どうでしょうか。

○分科会長（伊藤 仁） 塚本部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 議会のほうの村岡議員のご質問にもお答えさせていただきましたけども、やめるということは考えておりません。それとありますが、確かに決算的には黒字ということで言われるんですけども、ただ、最終的には単年度収

支見ていただきましたら、1億数千万円ということなんですけども、これも実際のところ、ふるさと納税を現年度分に充てたということもありまして、実際のところはもう、若干ですけど、単年度収支はマイナスのような状況になっとるんです、2019年度の決算も。

それと、あともう一つ、市民税の所得割をやめろということなんですけども、これも市長のほうから申し上げたと思うんですけども、最初に土地とか固定資産税だけを持っている方だけじゃなくて、市民全員にお願いするということが市民税というのの所得割も入っているということなんで、それを市民税だけやめるっていうこともちょっとそれも難しいと考えております。

○分科会長（伊藤 仁） 奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） いつも答弁もそう言うてはるんですけどね、どういうんですか、個人市民税のほうの超過課税っていうのは全国では豊岡だけっていうふうに言われてますし、そういったことの中で、取っておられる側は決して楽ではないとかそういうふうに対応になるんですけども、現実問題として、全国どこもやられてるということではないもんですから、これ年数を切るとか、そういったことでやっぱりやめていく方法も考えたらどうかと私は思います。そういった考え方も全く持たないのですか。

○分科会長（伊藤 仁） 塚本部長。

○政策調整部長（塚本 繁樹） 確かに所得割については豊岡市だけなんですけども、横浜市と神戸市はたしか均等割を取られておると思います、現在、市民税の中で。だから、ちょっと均等割をなぜ取っておられるか、超過課税されているかはちょっと理由は分からないんですけども。確かにおっしゃるとおり、所得割については豊岡市だけ、以前は夕張市もありましたけど、ただそれを、先ほど言いましたように、市民の皆さん全員にこの恩恵というか、社会基盤整備とかいろいろそっちのほうの税金を使わせていただきますんで、その辺でやっぱり市民全員の方からいただくということで、土地、建物所有の方だけとか、あと法人の方だけということではなく

て、全員でお願いしたいという趣旨で引き続きお願いしたいと思っております。

○分科会長（伊藤 仁） 奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） 引き続きということだから、これ議論進まへんのですけどね、私はそういう点でお金が入ることについて悪いなっていう人はいませんけども、しかし、市民の暮らし、特に今年の場合を考えますと、コロナの関係もあったんですし、いろんなところで影響が出てきてる状況があると思うんです、一方でね。だから、私やっぱりそれやめるべきだと、こう思います。やめます言うても、そんなんね、これ以上言うてもしやあないんですけどね、それでやめときます。

○分科会長（伊藤 仁） ほかがございませんか。石津委員。

○委員（石津 一美） もう一度確認でちょっとお聞きしたいんですけども、防災マイ避難カードの件で、先ほど奈佐地区と城崎地区ということでありましたけど、マイ避難カードの取組の詳細は、もう少し詳しく分かれば教えていただけませんか。

○分科会長（伊藤 仁） 原田防災課長。

○防災課長（原田 泰三） 今の議員ご指摘のマイ避難カードなんですけども、要は災害のときにあらかじめ安全な段階で、誰が、誰を、どこに、どのような方法で避難をさせるかということから発想があるんですけども、要はもうそのことを、以前は要援護者の方だけを対象にやってたようなイメージがあったんですけども、これを今もう家族単位だったりとか、一人一人の個人単位で取り組もうということで、防災ワークショップっていうのを毎年地区コミュニティ組織を対象に市と国土交通省とかが協賛してやってるんですけども、昨年度、奈佐地区と、それから城崎地域全体で取り組ませていただいた関係で、そこを取っかかりに、今後進めていこうというものです。とにかく個人単位で、誰が、誰を、どこに、どのようにですとね、あと、非常持ち出し品として何を持っていくかみたいなことを、簡単なA5判ぐらいの紙に記入例を添えて書き込めるようなものを世帯に配付をさせていただいております。

ちなみに、今年度については清滝地区と、それから日高地区と、それから中竹野地区ですね、その3地区で進めることになってます。ただ単に配って終わりっていうわけではなくて、その取組が毎年、毎年、ちゃんとやってるかどうかというのを各地域でチェックしてもらおうというようなことも併せてお願いをし、出前講座なんかの機会を通じてケアしてるという状況でございます。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 石津委員。

○委員（石津 一美） すごいい取組だと思って、私は本当に推奨してもっと進めていただきたいと思います。取りあえず終わりです。

○分科会長（伊藤 仁） ほかございせんか。

ないようですので、質疑を打ち切ります。

以上をもちまして分科会審査の午前の部を終了したいと思います。ここで、委員の皆さん、当局の皆さんから何かありましたらご発言願いたいと思います。

特にありませんか。特にないようですので、明日15日の委員会審査は午前9時30分から、当委員会室で行いますので、よろしくお申し上げます。大変お疲れさまでした。

分科会を暫時休憩いたします。再開は午後1時。

午前11時24分 分科会休憩

午後0時56分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） こんにちは。それでは、皆さんお揃いになりましたので、休憩前に引き続き、分科会を再開いたします。

委員の皆さん、並びに当局職員の皆さんは、質疑・答弁に当たりましては、要点を押さえ、簡潔・明瞭に行ってください、スムーズな議事進行にご協力をお願いします。

なお、委員会及び分科会での発言は、委員長・分科会長の指名ののち、マイクを使用して「課名と名字」を名のってから、行っていただきますようお願いいたします。

それでは、午前に引き続き、第119号議案 令和元年度豊岡市一般会計歳入歳出決算の認定につい

て、を議題といたします。

第119号議案中、当分科会に審査を分担されましたのは、所管事項にかかる歳入歳出決算書、実質収支に関する調書、財産に関する調書等についてであります。

収支に関する調書、財産に関する調書等についてであります。十分な質疑時間を確保するために、当局には、新規事業や前年度から大きな変更があった事業及び主要事業等を主として説明していただくよう依頼しております。

当局の説明は、まず、人事課から全体の人件費を含めて説明をしていただき、その後、組織順で課ごとに所管に係る歳出、歳入、実質収支調書、財産調書等をつけてご説明をお願いいたします。

質疑は説明が終わった後に一括して行います。

それでは、順次、説明を願います。

山本人事課長。

○人事課長（山本 尚敏） まず、令和元年度一般会計の人件費につきまして説明いたします。

説明のほうは配付しております令和元年度決算人件費の状況（一般会計）と、このペーパーに基づきまして、主なところのみ説明させていただきます。

まず、職員給のうち基本給です。給料と扶養手当でございますけれども、給料につきましては、人事院勧告によるベースアップということで、平均改定率0.1%、若年層のみの改定でございましたけれども、それによる増額の影響というのが出ております。

それから、その次に、その下のその他の手当でございます。全体では、合わせて2,788万9,000円の減額ということになっております。この中で、時間外手当が4,560万6,000円の減額ということでございます。主な要因といたしましては、台風等に係る災害対応が少なかったということ、それから、その前年から引き続き災害復旧事業が落ち着いてきたということもございまして、減少ということになっております。こういった特殊要因を除いて、平成30年度と比較しますと、一般会計ではなく、全会計ということになりますと、1,504時間減ったという状況でございます。

それから、その他の手当の中で、期末勤勉手当でございます。こちらのほうは、人事院勧告による改定という中で、勤勉手当の支給率が0.05月分増加ということで、その影響が出ております。

それから、その下のその他の手当です。1,005万7,000円の増ということで、このその他の手当につきましては、単身赴任手当と、それから休日勤務手当、それから夜間勤務手当を合わせた記載となっております。増加の要因としましては、昨年度につきましては、皇位の継承の関係で祝日が増えましたので、その分、休日勤務手当が増加しております。また、単身赴任もちょっと増加ということがございましての増という状況でございました。

それから、下のほうに行きまして、退職手当組合の負担金でございます。比較しまして1,043万7,000円のマイナスとしております。これにつきましては、一部が事業費支弁分のほうに計上されたということがございまして、これだけのマイナスが生じたものでございます。実質的には負担割合も1000分の155で変わっておりませんので、事実上は41万1,000円の減額という状況でございます。

それから、その下のほうのその他でございます。このその他につきましては、中身的には非常勤嘱託職員の報償だとか、臨時職員の手当や社会保険料等で構成されております。この分の増額につきましては、嘱託職員が増加したことに伴いましての増加ということでございます。

あとは、一番下に事業費支弁人件費ということで、ここ増額につきましては、先ほど退職金のところで申し上げたような要因も含めての増額ということになっております。

一般会計全体を合わせまして79億3,064万5,000円ということで、平成30年度と比較しまして301万8,000円の減額という状況でございました。

続きまして、事業費のほうを説明させていただきます。

事業費のほうにつきましては、決算書の93ペー

ジをお開きください。事業費につきましても、主なところのみ説明させていただきます。93ページの上から15行目のところから人事給与費がございます。平成30年度と比較しまして400万円ほどの増額となっております。要因としましては、今年度から会計年度任用職員の制度がスタートということがございました。それに対応するように、人事給与システムの改修等を行ったものでございます。

それから、同じく93ページの下から6行目から職員研修事業費がございます。職員研修事業費につきましては、平成30年度と比べて300万円ほど減額となっております。これにつきましては、職員派遣の派遣先が減少したこと、環境省と、それから株式会社楽天が、令和元年度から派遣がなくなっております。そういったことがございまして、減額という状況でございます。

それから、次に、349ページをお開きください。備考欄の下から8行目、被災地応援活動事業費がございます。この中で、人事課の所管分としましては特別旅費と、それから消耗品費、住宅使用料でございます。この被災地支援につきましては、昨年度、台風19号の被災地であります宮城県の大崎市と、それから長野県の上田市に土木技師を派遣しております。その関係に係る経費でございます。

次に、歳入について説明いたします。

歳入につきましては、まず、71ページをお開きください。上から3行目から派遣職員給与費等負担金がございます。ここにつきましては、平成30年度と比べて1,000万円ほど増額となっております。その中、派遣職員の給与負担金の中の一番最後の欄のところに、災害応援派遣というのがございますけれども、この分が新たに増えております。これは、先ほど歳出のところで申し上げました大崎市と上田市、ここに派遣したところから負担金としていただいたもの、それが増額という状況です。

そのほか、南三陸町に派遣した職員につきましては、東北の震災の復興事業に加えまして、台風19号の対応ということで時間外勤務がちょっと増えた関係もありまして、給与負担金についても増加と

いう状況になっております。

それから、同じく71ページの中ほどに受益者負担金がございます。この中で、人事課の所管する分が、3つ目に書いてあります職員駐車場と、その下の成人病健診でございます。

次に、77ページをお開きください。上から13行目のところに職員健康診査助成金でございます。これにつきましては、職員の健康診査に係り、共済組合のほうからいただく助成金でございます。

それから、同じく77ページ、研修費助成金がございます。これにつきましては、全国市町村国際文化研修所等へ行って受ける研修とかに係る助成金であったり、共済組合からは、メンタルヘルス研修を実施したことに対する助成金ということになっております。

人事課からは以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、太田垣総務課長。

○総務課長（太田垣健二） それでは、総務課が所管する事務事業の決算について、主なものを中心にご説明をいたします。

まず、歳出から説明いたします。

決算書の91ページをご覧ください。右上に一般管理費でございますけれども、この一般管理費の全体額のうちに、総務課分といたしましては、主に市広報等などの文書の收受、あるいは入札契約事務、法令関係事務など、行政事務の執行に必要な経費や地区集会施設の整備に係る補助金等を執行しております。総務課分といたしましては3,495万6,391円の決算額となりました。昨年度の決算額と比較いたしますと約1,380万円の増額となっております。

その主な要因の1つ目といたしましては、右側の中段あたりの業務委託料の内訳に契約管理システム導入業務と記載がございます。これは、兵庫県の電子入札共同運営システムを利用して、将来的な電子入札の導入や契約関係事務の効率化を目的といたしまして942万3,260円を支出いたします。これが1点。

それから、2つ目の要因といたしましては、右側中段より少し下がったところに補助金、地区集会施設整備費と記載がございます。これは、単位行政区の集会施設、いわゆる地区会館の新築あるいは改修、あるいは空調設備の新設に要する経費に対する補助金でございます。昨年度と比較いたしまして、2019年度は新築が1件あったこと、それから空調の新設件数が4件増えたことによりまして374万6,000円の増額となっております。これら2つが合わさりまして、決算額を押し上げたものと考えております。

次に、決算書99ページをご覧ください。右側の中段あたりの庁舎管理費でございます。ここでは、本庁舎、それから豊岡稽古堂の維持管理に必要な経費を執行しております。8,423万3,366円の決算額となりました。昨年度の決算額と比較いたしまして約640万円の減額となりました。

その主な要因の1つ目といたしましては、右側の下から2行目にあります機器借り上げ料におきまして、電話交換機の一部が2018年度末にリースアップになりまして、ここで約480万円減額となっております。

また、2つ目の要因といたしましては、ページを1枚めくっていただいて、101ページですけれども、上から4行目に整備工事費とございます。2019年度は中庭の整備工事のみでしたので、昨年度の工事よりも160万円減額となっております。これら2つが合わさりまして、決算額の減額になったものと考えております。

続きまして、決算書103ページをご覧ください。下から5行目の市役所駐車場管理費でございます。ここでは、市役所の北側、それから東側の駐車場の管理に要する経費を執行しております。436万5,308円の決算額となりました。昨年度と比較いたしまして約250万円の減額となっております。その主な要因といたしましては、市役所の北側の駐車場の定期券通過機、いわゆる駐車場の料金を精算する機械のことですけれども、これが28年度末でリースアップとなりまして、これが250万円減

額になった原因と考えております。

次に、決算書177ページをご覧ください。上から4段目あたりに人件費とございますけども、この人件費の全体額のうち、総務課分は8万5,248円の決算額となっております。これは、この後説明をいたしますけども、全国消費者実態調査と国勢調査の事務に要した職員の時間外勤務手当をここで執行しております。

続きまして、決算書179ページをご覧ください。一番上の人件費でございます。これは、上から3行目に全国消費者実態調査とございますけども、この調査を実施するに当たりまして、調査員4名に支払った報酬で、決算額が63万8,920円となったものでございます。

同じく、決算書179ページの、先ほど触れました全国消費者実態調査でございますけども、ここでは、家計におけます消費、所得試算等の実態を把握するため、世帯の所得分布、消費の水準を全額及び地域別に明らかにすることを目的といたしまして、5年ごとに実施される調査でございます。ここでは31万4,011円の決算額となっております。

同じく、決算書179ページの2つ目の欄の国勢調査費でございます。ここでは2019年度、本年度が国勢調整の本番なんですけども、その国勢調査、前年度の準備に要しました事務経費をここで執行しております。6万4,196円の決算額となっております。

続きまして、決算書の189ページをご覧ください。一番下の欄に人権対策事業費とございますけども、この人権対策事業費の全体額のうち、総務課分といたしましては、ページをめくっていただいて、191ページの上から4行目に補助金とございます。これは、兵庫県弁護士会への補助金を執行したもので、総務課といたしましては10万円で決算しておるところでございます。

次に、大分飛びまして、決算書の349ページをご覧ください。下から8行目のところに災害被災地応援活動事業費と記載がございます。この全体額の

うち総務課分といたしましては、昨年10月に発生いたしました台風19号により被災した長野県上田市に職員を派遣した際に執行いたしました燃料費などの経費、それから豊岡総合高校のインターアクトクラブに交付いたしました災害被災地応援活動事業補助金ということで、合わせまして決算額が総務課分といたしましては38万9,234円ということになっております。

歳出に関しましては以上でございます。

次に、歳入についてでございます。総務課のほうで歳入いたしましたもののうち、主なものについて説明を申し上げます。

決算書の29ページをご覧ください。上から5つ目の欄の市役所北駐車場使用料でございますけども、決算額はご覧のとおり、440万1,200円となっております。昨年度より約90万円の増となっております。

また、同じ欄の豊岡稽古堂使用料でございますけども、決算額は77万6,194円となりまして、こちらも昨年度と比較いたしまして約10万円の増額となっております。

続きまして、決算書53ページをご覧ください。上から5つ目の欄でございますけども、この欄の1行目に国勢調査事務委託金、同じく4行目に全国家計構造調査事務委託金、同じくこの欄の下から2行目の統計調査費確保対策事業費委託金とございますけども、これ、先ほど歳出の際に説明いたしました同様の名称の事業の3つ、それぞれ執行いたしました全額に対して、兵庫県から委託金として歳入いたしましたものでございます。

総務課の分の説明は以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、上田総務部次長。

○総務部次長（上田 篤） ワークイノベーション推進室につきましては、主要な事業等で3件、私のほうから一括してご説明したいと思います。

まずは、115ページをご覧ください。一番下のキャリアデザイン推進事業費でございます。890万6,781円でございます。

主な費目として、117ページをご覧いただきたいと思います。こちらの事業につきましては、2019年1月に策定しましたキャリアデザインアクションプランという市の職員向けのプランなんです。これに沿って全ての職員が能力を発揮して、市民の暮らしを支えていくために必要な自立的なキャリア形成意識を醸成していくことなどを中心に取組を進めております。

この中で、5つの講座に対して20コマを実際、実施しています。例えば全職員対象のキャリアデザイン研修ですとか、管理職研修、女性のためのリーダーシップ研修などがございます。こちらの委託料として、そちらに業務委託料の下に職員研修業務ということで713万2,250円を計上いたしております。

それと、その下が職員意識調査業務でございます。これ、2018年度から実施してるんですけど、2019年度については全正規職員887名を対象に実施しました。そちらの委託料が55万円でございます。

3つ目に、内定者研修業務でございます。これ、2020年4月の採用内定者、34名を対象に入庁前の研修1.5日を実施しました。2020年の3月14日から15日なんですけど、これ初めて実施いたしました。狙いとしては、社会人基礎力、例えば聞く力とか話す力とか、プレゼンテーション、説明する力などを装着したりとか、同期のチームビルディングとか、先輩からいろいろとアドバイスをもらって不安を解消しながら、自信を持って入庁していくというために実施したものでございます。こちらが63万1,400円でございます。

職員研修業務と職員意識調査業務につきましては(株)Will Lab、それと内定者研修業務につきましては、People Treesに委託いたしております。

続きまして、今度、163ページをご覧いただきたいと思います。中ほどにワークイノベーション推進事業費がございます。こちらが1,001万5,440円でございます。まず、報奨金65万円です

が、ワークイノベーション推進事業のほうは、女性も働きやすく働きがいがあると感じる事業所を増やすことによって、職場のジェンダーギャップを解消と、これを切り口にした町全体のジェンダーギャップの解消に取り組んできたんですけど、この報奨金につきましては65万円、内訳としまして、まず、今年度の新設します市内のお手本になる事業所、表彰制度の開設に向けて、アドバイザーであったり、審査員予定者5名の試験的な表彰、審査の実施とかで50万円、ワークイノベーションセミナーということで解決志向の面談スキルを装着するための市内の事業所の社員さん、それと職員向けに実施したセミナーに15万円ということで、合計65万円でございます。

その下ずっと行きまして、業務委託料で、ワークイノベーションワークショップ支援業務ということで800万7,750円計上いたしております。これにつきましては、市内の事業所の経営者、人事担当者、管理職、女性従業員向けという、この4つの階層でセミナーワークショップを合計11本開催いたしております。それと合わせて、従業員意識調査を6つの事業所で実施してるんですけど、その費用とかアドバイザー経費で681万1,750円、これも株式会社Will Labに委託でございます。

それと、管理職向けの演劇ワークショップということで、これは有限会社アゴラ企画に75万6,000円、それとアンケートの回収作業で、(株)Will Labに44万円と、合計800万7,750円でございます。

続きまして、165ページをご覧いただきたいと思います。ジェンダーギャップ対策事業費ということで525万8,286円でございます。これ、今年度、この9月から戦略会議を設置して戦略の策定に入るんですけど、その準備として、2019年度はいろいろと準備を進めてまいりました。その報奨金の198万5,280円の内訳としましては、ジェンダー平等推進アドバイザーを去年の6月から、大崎麻子さんなんですけど、を設置しています。そ

れとその経費、それと併せて、去年の5月に、ジェンダーギャップ解消のためのシンポジウムを開催しました。その講師、パネラーの費用などで54万円、それと、今年2月に、高校生と20代を対象にワークショップをしています。そのときのファシリテーター等の謝金とかでございます。

それと、業務委託料のアンケート調査業務としております、255万9,150円でございます。これ、戦略策定に向けて、新たに市内の10名の方にヒアリングをしていただいたりとか、既に実施します男女共同参画の市民向けとか事業所向けのそういう調査結果を精査したりとかを踏まえて、提言書を去年の12月に作っていただいているんですけど、その委託料として255万9,150円、これについては上智大学の目黒先生、それと関西学院大学の大崎先生、このお二人に委託いたしております。その結果につきましては、12月に市民の皆さん、それと事業所の皆さんに対して報告してます。これを受けて、今年度、戦略の策定ということでございます。

続きまして、歳入のほうでございます。

75ページをご覧くださいと思います。上から5行目にワークイノベーション推進事業負担金、雑入の中で30万円計上しています。これは歳出でご説明しました市内の事業所向けの従業員意識調査、1社当たり5万円掛ける6社ということで30万円でございます。

ワークイノベーション推進室からは以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、中奥情報推進課長。

○情報推進課長（中奥 実） それでは、決算書の133ページをご覧ください。中央よりやや下になります行政情報化推進事業費です。まず、消耗品費ですが、金額が3,223万7,554円と金額大きくなってますけども、この主なものとしましては、ライセンスの更新等のソフトウェアの経費となっております。

その下の業務委託料のうち、システム開発業務に

ついてです。こちらのほうは、統合型GISのクラウド更新に486万円と、番号連携サーバー改修で154万円を支出しております。

その下の社会保障・税番号制度対応システム改修業務につきましては、社会福祉課及び高年介護課の執行分です。

その下の情報戦略アドバイザー業務については、情報戦略に関する助言、支援を受けるためにアドバイザー業務を結んだものです。

一番下の事業用備品については、事務用のパソコン247台、約1,995万円を執行したものが主なものとなっております。

情報推進課からは以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、宮崎税務課長。

○税務課長（宮崎 雅巳） 決算書147ページをお願いします。3分の1ほど下のところです。還付金及び返納金3,966万9,229円です。その1番目としまして、市税過誤納還付金3,943万4,229円でございます。これは、昨年度と比べまして948万円程度増額となっております。その原因につきましては、法人市民税でございまして、前々年度の確定を受けた予定申告分が過大となって、その翌年度で還付を行うこととなったケースが前年度より多くなったことによるものだと考えております。

その次、還付加算金につきましては20万1,900円、返還金につきましては3万3,100円でございます。

次に、167ページをお願いします。税務総務費でございます。これも下のほうです。税務総務費（税務課分）というところでございます。決算額302万4,596円でございます。昨年度と比べまして12万3,497円の増でございますが、支出の項目につきましては、昨年度と同様でございます。事務費と関係団体への負担金を支出いたしております。

次のページをお願いします。169ページ、賦課徴収費でございます。賦課徴収事務費、税務課分ということで5,244万6,906円の決算額でござ

ございます。昨年度に比べまして457万3,330円の増額となっております。

主なものですが、ここの9行ほど下がってもらいまして、保守点検委託料を説明いたします。保守点検委託料543万5,721円です。これは、各種システムの保守に関わるもので、前年度から21万9,000円程度増額となっております。

そこからまた下がっていただきまして、業務委託料でございます。1,928万5,013円です。こちらのほうが、固定資産税等のシステムに係るデータ入力、あるいは住民税のデータ入力業務などです。

前年度になかった業務としましては、地方税共通納税システム導入に伴う基幹システム改修業務を497万8,000円で委託いたしております。このため、委託料総額としては、前年度から387万9,000円の増となっております。

その下です。負担金です。415万2,713円ですが、地方税電子化協議会、次のページになりますけど、兵庫県電子自治体推進協議会等に対する負担でありまして、先ほど申しました地方税共通納税システム導入に伴い増額となっております。

171ページ、その下ですけど、固定資産税評価替事業費でございます。5,104万8,500円です。昨年度と比べまして4,200万円程度増額となっております。その主な内容ですが、手数料につきましては、固定資産税の評価替えのために、2021年の評価替えに向けた作業に係るものでして、関連する土地の鑑定評価を含みます。その手数料が4,942万8,500円です。そのほか、2020年度課税のための時点修正に係る鑑定評価も含んでおります。

以上が歳出でございます。

続いて、歳入の説明をいたします。

19ページをご覧ください。市税全体での調定額は105億8,644万2,000円で、前年度比0.4%の減となっております。

収入済額につきましては100億3,022万8,000円で、対前年37万1,640円の増で、比

率にしますと0.04%の微増でございます。徴収率は94.7%で、前年度比0.4ポイントの増となりました。このうち、現年度分の徴収率が98.9%、昨年の99.0%とほぼ同等ですけど、滞納繰越金分につきましては19.6%となっております。前年度に対して3.5ポイントの減となっております。

不納欠損の額につきましては、合計で2,602万5,000円でございます。収入未済額の合計は5億3,018万9,000円で、前年度から2,237万4,000円の減となっております。

内訳はそれぞれ申しませんが、それぞれの徴収率だけご報告させていただきます。個人市民税のほうですが、徴収率は95.6%、法人市民税は徴収率98.9%、固定資産税は徴収率93.1%、軽自動車税は徴収率94.3%、市たばこ税が徴収率100%、それから、次のページになりますが、入湯税です。入湯税は徴収率100%でございます。次の都市計画税につきましては、平成21年から廃止しているため、未納となっている滞納繰越分のみを計上いたしております。

それぞれ増減等なかなか分析しにくい状況にはあるんですけど、調定額ベースで額の変動が最も大きかったのは固定資産税でございます。約8,500万円の減でございます。この減の主な要因につきましては、滞納繰越分の減額が大きいです。7,000万円程度で多くを占めております。前年度、平成30年度の徴収額が大きかったこと、あるいは不納欠損の額が大きかったことによって、滞納繰越分が少なくなってきました。

また、都市計画税を除いて、増減率のほうが一番大きかったのは軽自動車税で、4.4%の増でした。環境性能割435万1,900円が加わったことなどにより増となったものと考えております。

次に、33ページをご覧ください。33ページ中ほどです。徴税手数料です。市税督促手数料197万9,800円、これは1件100円で、督促状に係るものでございます。税務関係閲覧手数料につきましては26万3,700円、税務証明手数料につ

きましては368万3,500円でございます。

続きまして、53ページをご覧ください。備考欄、一番上です。県民税徴収事務委託金1億2,878万696円です。これは、県民税も一緒に徴収しますので、県に納めるときに納税義務者数等に応じて計算された金額を県からいただいているものでございます。

続きまして、65ページをご覧ください。備考欄の一番上です。諸税滞納延滞金です。これにつきましては、前年度に比べて459万3,705円減額となっております。滞納分の収入が減ったこと、あるいは長期の滞納者が減ってきたために減額になったものと思われま

す。続きまして、67ページ、次のページでございます。備考欄に記入してあるとこの上から3つ目、滞納処分費76万3,100円です。これは、公売等を行うために必要な不動産の鑑定費用やら、インターネット公売の手数料が主な内容となりまして、売却金額から充当したものになります。

続きまして、69ページの一番上の複写料の中、178万983円のうちの4万580円は税務課、コピーして市民等に提供したもののコピー代でございます。

最後に、622ページ、財産に関する調書の中の3の債権の欄の一番上の個人市民税でございます。これは、毎年、特別徴収の4月と5月分は前年度に請求しますが、収入自体は翌年度となりますので、2か月分を債権として計上いたしております。決算年度末の現在高は4億2,023万8,000円でございます。以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、三笠会計課長。

○会計課長（三笠 孔子） それでは、歳出のほうから説明をいたします。

99ページをお開きください。上からのほうですけど、3段目のところで会計管理費です。676万4,942円ということで、前年度から約600万円減額となっております。前年度はOCRシステムの更新の費用が約700万円ありましたので、その

分が減額で、今年度、そのシステム改修等につきましては、下のほうの業務委託料、公共料金システム更新業務115万8,840円、それと、その下に庁用備品、システムの更新に伴うパソコンの購入費用で13万9,860円、これが元年度、特に主な支出になります。ほかにつきましては、会計課の経常的な事務費になります。

続きまして、103ページです。ちょっと見えにくいんですけど、上から3分の1ぐらいのところに基金管理費、その後、たくさん課名が書いてありますけど、11億3,738万4,079円のうち、会計課につきましては、下のほうで、それぞれ積立金（利子）って書いてある分の利子の合計で2,818万6,118円になります。

それとあわせて、105ページの上から6行目、土地開発基金繰出金、ここも会計課分がありまして、66万2,560円のうち21万639円が会計課の所管になりまして、土地開発基金の利子の積み立てた分になります。先ほどの基金の合計と合わせまして2,839万6,757円となります。これにつきましては、前年度に比べまして約8,000万円減少しております。この積立金は基金の運用利子をそのまま積み立てるという形になりまして、運用利子のほうの金銭信託の利子の減少によるものです。内訳につきましては、歳入のほうで説明させていただきます。

続きましては、歳入のほうに参ります。

55ページをお開きください。真ん中から下のところで、基金運用利子2,968万3,628円、先ほどの積立金のほうの合計、土地開発基金と合わせた合計がこの金額になります。

収入の内訳ですけど、このうちの128万6,871円が果実運用分です。それを除いた分と、先ほどの歳出のほうの額が合ってきます。

果実運用分につきましては、上から3番目の福祉基金、それから、その次の水と土保全対策基金、もうちょっと下のほうで、植村直己顕彰基金、それから、その2つ下の東井義雄遺徳顕彰基金、これが果実運用分になります。こちらのほうも約8,000

万円減少になります。主な要因なんですけど、まず、ちょっと先に、下から3行目の地域振興基金利子が320万円ほどになりますが、これが前年度は4,300万円ほどで、4,000万円の減になっております。これは、地域振興基金を元本としました金銭信託が30年度で元金が返ってきておりまして、元年度は元金がゼロだったということで、その金銭信託の分の利子4,000万円が入ってきてないというか、入ることはないんですけど、それがなくなったということで減少しております。

一番上の財政調整基金利子ですけど、こちらのほうが、前年度は5,500万円ほどあったのが1,500万円ほどになったということで、こちらも4,000万円ほどの減になっております。こちらのほうにつきましては、元金10億円についてはまだ残っているんですけど、この金銭信託の利子につきましては、利子の支払い月の月初めの為替レートによってその利率が決まりますもので、ちょっと事前にそれを予測しとるといってということが難しい。平成30年度は、上限の利率が適用になって、満額その利子がもらえてたんですけど、元年度につきましては、円高のほうに移行しておりまして、だんだん為替レートの利率が減ってきたというふうなことがあって、最終的に、財政調整基金5,000万円近くあった30年度の利子が1,014万9,862円ということで、約4,000万円減少したということが大きな理由となっております。

続きまして、65ページです。上から3分の1ぐらいのところの預金利子です。28万9,923円のうち、会計課の分は28万1,325円です。これは、日常的な支払準備金の余裕金を日計内定期として定期預金のほうに預けた額の合計になります。

それから、69ページをお開きください。これも、上から3分の1ぐらいのところ、頒布代の請求書用紙、これは市伝票の販売代になります。

それから、71ページ、これも上から3分の1ぐらいのところ、会計事務負担金ということで、北但行政と但馬広域行政、それぞれ伝票処理を会計のほうでしている関係で、事務費をいただいております。

す。これも例年どおりです。

会計課は以上です。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、吉谷消防本部次長。

○消防本部次長（吉谷 洋司） それでは、歳出のほうから説明をさせていただきます。

まず、決算書337ページをご覧ください。常備消防費についてご説明いたします。8行目にあります職員研修費につきましては、兵庫県消防学校へ新規採用者8名と、消防大学校、火災調査科へ1名、神戸市消防局指揮隊同乗実習へ1名を派遣した経費が主なものでございます。

次に、6行下、一般管理費でございますが、1行下の報償金は、消防職員を対象に開催した惨事ストレス研修会に係る経費でございます。

続いて、下から6行上、消防活動事業費でございますが、6月に開催されたG20大阪サミット消防特別警戒に8名を派遣したことに伴い、普通旅費と消耗品費の増額、燃料費及び通行料を追加してまいります。なお、G20大阪サミット消防特別警戒に係る経費は国費で補填されておりますので、歳入でご説明いたします。

339ページをご覧ください。3行目にあります事業用備品は、デジタルカメラを更新したものでございます。

最終行の情報通信設備管理費でございますが、341ページをご覧ください。10行目にあります高機能消防指令センター機器更新は、年次計画に基づき機器の更新に係る経費でございます。

1行下のホームページ改修業務は、消防本部が管理運営していますホームページの改修に係る経費でございます。

続いて、消防庁舎管理費でございますが、4行下の修繕料につきましては、豊岡消防署に設置するホース乾燥棟に係る修繕が主なものでございます。

最後の行、情報通信設備管理費の繰越明許分は、高機能消防指令センターに設置する長時間録音装置の修繕に係る繰越明許分でございます。

続きまして、345ページをご覧ください。消防

施設費についてご説明いたします。豊岡消防署消防設備・施設整備事業費につきましては、豊岡消防署配備の救助工作車と資機材搬送車を更新したものでございます。

中段にあります但東駐在所消防設備・施設整備事業費につきましては、但東駐在所配備の高規格救急自動車を更新したものでございます。

次に、歳入のほうのご説明をいたします。

35ページをご覧ください。中段にあります消防手数料につきましては、危険物申請手数料として、80件分の107万9,650円、1行下の消防証明手数料として、53件分の1万5,900円を収入いたしております。

続きまして、51ページをご覧ください。下段より少し上にありますG20大阪サミット消防救急体制整備費補助金は、先ほど歳出で説明しましたとおり、6月に開催されたG20大阪サミット消防特別警戒に係る経費の補填でございます。

続きまして、69ページをご覧ください。下から3行上、トンネル非常警報盤管理として委託を受けている3か所分の118万8,000円を収入いたしております。

続きまして、73ページをご覧ください。下から9行上にあります防火管理者資格取得講習受講料として、受講者129名分の57万円を収入いたしております。

続きまして、83ページをご覧ください。消防債につきましては、消防防災施設整備事業債の2行下にあります高規格救急自動車は、但東駐在所の高規格救急自動車を更新したものでございます。その3行下にあります救助工作車と資機材搬送車は、豊岡消防署の救助工作車と資機材搬送車を更新したものでございます。以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 続きまして、宮岡選管・監査事務局長、お願いします。

○選管・監査事務局長（宮岡 浩由） それでは、決算書166、167ページをお願いいたします。税務総務費のうち、監査委員事務局の所管分についてご説明を申し上げます。まず、委員報酬11万7,

100円でございますが、固定資産評価審査委員会委員3名の方への報酬でございます。審査申出が5件ございまして、都合8回の委員会を開催いたしました。

次に、169ページ、お願いをいたします。固定資産評価審査委員会費53万9,279円でございますけれども、委員会の経常的な運営費のほか、訴訟に係る費用を執行いたしております。訴訟業務に係る顧問弁護士の着手金としての委託料32万4,000円につきましては、予備費からの充用で対応をいたしました。また、年度内に4回の口頭弁論を経まして結審はいたしましたが、判決の言渡しが、本年度、令和2年度となりましたために、顧問弁護士への報酬相当分の委託料33万円につきましては、令和2年度へ繰越しをいたしております。

なお、去る6月16日に神戸地方裁判所におきまして、訴訟の相手方、原告になりますが、そちらの請求を棄却するという判決がなされまして、裁判自体は終結をいたしております。

続きまして、172、173ページをご覧ください。選挙費のうち選挙管理委員会費でございますが、主立ったものについて説明をいたします。委員報酬140万4,000円につきましては、選挙管理委員会委員4名の方への月額報酬でございます。同じく選挙管理委員会費総額39万7,624円は、委員会の経常的な運営費でございます。

このページの下、第24目県議会議員選挙費ですけれども、これは、平成31年3月29日に告示、同年4月7日に投開票を予定していたものでございますけれども、結果的には無投票となりました。しかしながら、選挙執行に向けて準備を要した経費がございます。これが総額305万8,088円でございます。

支出額の内容でございますけれども、事務補助としての臨時職員に係る人件費をはじめといたしまして、投票管理システムの保守点検委託料、投票所入場整理券の作成業務委託料、その他選挙に向けての必要な種々の費用となっております。

続いて、174、175ページのほうをご覧ください

ます。参議院議員選挙費でございますけれども、これは、令和元年7月4日公示、7月21日に執行いたしました第25回参議院通常選挙に要した経費でございます。人件費のうち非常勤職員報酬384万260円と、参議院議員選挙費3,369万4,306円、これを合計しまして3,753万4,566円でございます。

まず、人件費といたしましての非常勤職員報酬384万260円は、期日前を含む投票管理者、投票立会人及び開票立会人への報酬でございます。このほかに、事務補助員や期日前投票事務従事者への賃金など、人夫賃として133万1,835円をはじめ、投開票事務従事者等への報償金1,342万6,285円、選挙用ポスターの掲示板などの消耗品費831万4,064円、賄い料としての食料費、これが138万9,179円、自動読み取り機の事前点検や設置に係ります手数料114万9,745円、投票所入場整理券の作成業務等の委託料222万5,394円、投開票所や個人演説会会場の借り上げ費用32万3,810円、177ページになりますが、投票記載台などの庁用備品116万4,424円など、選挙費用総額で3,369万4,306円を執行いたしました。

なお、このほかに、人事課所管の予算から、臨時職員に係ります人件費並びに時間外及び休日勤務手当など執行させていただいておりますので、参議院議員選挙に要した費用といたしましては、総合計で4,180万5,230円ということになります。

続いて、180ページ、181ページ、ご覧願います。監査委員費でございますけれども、主立ったものについて説明いたします。委員報酬281万5,199円は、監査委員さん3名の方への月額報酬でございます。監査事務費、総額85万192円は監査委員事務局の経常的な運営費でございます。

歳出については以上でございます。

続きまして、歳入の説明に移らせていただきます。

決算書52ページ、53ページをお開き願います。選挙費委託金でございます。総額で4,486万8,864円が兵庫県から交付をされました。兵庫県議

会議員選挙事務費として305万8,088円、在外選挙人名簿の登録事務費として、6件分について5,546円。また、啓発推進を含めます参議院議員選挙事務費として4,180万5,230円となっております。選挙執行に係る事務費委託金につきましては、先ほどご説明を申し上げました兵庫県議会議員選挙及び参議院議員通常選挙に係る費用の総額と同額となっております。

続いて、71ページをお開き願います。雑入のうち、上から10行ほど下に記載の監査事務負担金についてご説明を申し上げます。これは、北但行政事務組合と但馬広域行政事務組合の監査事務を受託いたしております、その事務負担に係る人件費相当額を負担金として、それぞれの組合からいただいているものでございます。総額で49万6,999円でございます。

選挙管理委員会、監査委員事務局からは以上でございます。

○分科会長（伊藤 仁） 説明は終わりました。

分科会を暫時休憩いたします。再開は14時10分。

午後1時58分 分科会休憩

午後2時08分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 定刻より少し早いですけれども、休憩前に引き続き、分科会を再開いたします。

質疑はありませんか。（「もうちょっと待って」と呼ぶ者あり）もうちょっと待つおね。

○委員（岡本 昭治） ちょっと1点。

○分科会長（伊藤 仁） 岡本委員。

○委員（岡本 昭治） 69ページですね、消防のほうで説明いただいた69ページの下から3行目のトンネル非常警報盤管理というのは、これ、豊岡市が管理してるトンネルですか、どこのトンネルの分かというのをちょっと参考に教えてください。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

どうぞ。

○消防本部長（吉谷 洋司） 消防本部が管理して

おりますトンネルは、日高にあります城山、浅倉トンネル、蘇武トンネル、それから、豊岡の戸辺羅山トンネルの3か所でございます。

○委員（岡本 昭治） はい、分かりました。ありがとうございました。

○消防本部次長（吉谷 洋司） 申し訳ございません。トンネルは4か所ですけど、3か所分の管理費ということで、城山、浅倉トンネルが2か所ですけど、1か所分ということで管理費のほうはいただいております。申し訳ございません。

○分科会長（伊藤 仁） 岡本委員、よろしいですか。

○委員（岡本 昭治） はい、ありがとうございました。

○分科会長（伊藤 仁） ほかがございせんか。嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） 55ページの、これは中段、財政調整基金利子、ここで聞いたのかな、金銭信託について、会計課長、もう少し詳しくちょっとお話しただけですか。今、10億1本ですよ。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。

○会計課長（三笠 孔子） 今、金銭信託につきましては、財政調整基金を元金とする10億が1本になっております。平成元年度につきましては、それぞれ9月と3月に利子が入ってきているんですけど、9月がレート、利率が1.38%で695万6,712円、それから、3月に入ってきたのが、0.63%で319万3,150円となっております。合わせて1,014万9,862円となっております。

○分科会長（伊藤 仁） 嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） これは、幾らになったら、あれが終了するんだっけ。

○分科会長（伊藤 仁） 答弁願います。三笠課長。

○会計課長（三笠 孔子） これにつきましては、目標の利子の額が決まっております、それが2億5,000万円になったら終了ということになります。それで、平成元年度末で残り1,400万円ほどになっています。

○分科会長（伊藤 仁） 嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） すみません、平成元年度末。

○会計課長（三笠 孔子） 平成元年度末までに入った金額。

○委員（嶋崎 宏之） 令和でしょう。

○会計課長（三笠 孔子） ごめんなさい、令和元年。

○委員（嶋崎 宏之） 平成元年はもうとうに終わって。

○会計課長（三笠 孔子） ごめんなさい、すみませんでした。令和元年度末。

○委員（嶋崎 宏之） 令和元年度末ですね。

○会計課長（三笠 孔子） はい。あと残りが1,400万円で、今年度それが全部入ってくれば、今年度中に元金が償還になるんですけど、今のレートの感じでいくとちょっと難しいかなっていう状況です。

○委員（嶋崎 宏之） 残ったにしたって、来年ぐらいにはクリアできそうということですね。はい、ありがとうございます。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） ほかがございせんか。ないようですので、質疑を打ち切ります。

以上をもちまして分科会審査の午後の部を終了したいと思います。

ここで、委員の皆さん、当局の皆さんから何かありましたらご発言願いたいと思います。いかがでしょうか。

特にないようですので、当局の皆さんは、ここで退席していただいて結構です。

明日15日火曜日の委員会審査は午前9時30分から、当委員会室で行いますので、よろしくお願いをいたします。

ここで分科会を暫時休憩いたします。

午後2時15分 分科会休憩

午後2時16分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 休憩前に引き続き、分科会を再開いたします。

第119号議案の審査につきましては、先ほど質疑まで終えましたので、討論に入ります。

討論はありませんか。（「すみません、ちょっといいですか、決算」と呼ぶ者あり）

暫時休憩をいたします。

午後2時16分 分科会休憩

午後2時16分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

討論はありませんか。

奥村副委員長。

○委員（奥村 忠俊） 午前中にも申し上げたんですけれども、いわゆる超過課税の関係で、私どもは初めから、それはやっぱり全国的には豊岡市しかしてないという面もありますので、その点で反対をしております。豊岡市の財政状況を見ると厳しいというふうに言われてますけれども、この今の市民税、固定資産税の超過課税分を市民にかけた分をやめても十分やっていけるというのは、誰も承知の上だと思います。私としましては、毎回、この点については合意できないという思いがございますので、ぜひ反対したいと思います。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） ほかに討論ありませんか。

嶋崎委員。

○委員（嶋崎 宏之） ただいま反対の立場からの意見がございましたけれども、私は認定に賛成の立場から討論したいと思います。

市民税並びに固定資産税の超過課税は、都市計画税の廃止に伴う代替財源として議会で認めてきたもので、今日の市民の暮らしを着実に支えていると言えます。平成31年度も歳出の見直しを着実に進めながら、市民福祉に資する様々な事務事業になされてきました。

特に下水の起債の償還に主に充ててるということで、特に、先ほどの反対討論のほうでは、市民税の中でも個人市民税に対して、それはもう既に見直してやめたらどうかと、あるいは期限付にしたらどうかというふうなご意見がございましたけれども、財政的なあれから言って、確かに個人市民税、それからあと法人市民税、そして固定資産税というもの

にそれぞれ超過課税されてるわけですがけれども、金額的には、個人市民税というのは、その中でも一番ウェイトとしては若干低めなんですけれども、それにしても、やはり大事な財源でございまして、脆弱な財政構造ということからいって、市民の暮らしをしっかりと支えていくということで、この市民税、固定資産税の超過課税を含むこの本案は、やっぱりこれ適切妥当な決算であり、認定すべきであるというふうに考えておりますので、皆様のご賛同、よろしく申し上げます。以上です。

○分科会長（伊藤 仁） ほかにございませんか。

賛成、反対の意見がありますので、挙手により採決を行います。

本案は、認定すべきことに賛成の委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○分科会長（伊藤 仁） 賛成多数により、第119号議案は認定すべきものと決定しました。

ここで、分科会を暫時休憩いたします。

午後2時20分 分科会休憩

午後2時20分 委員会開会

○委員長（伊藤 仁） 委員会を再開いたします。

これより、（2）意見・要望のまとめについて、ア、委員会意見・要望のまとめに入ります。

休憩前に当委員会に審査を付託されました案件の審査は終了しました。

ここで、委員会意見・要望として委員長報告に付すべき内容について協議いただきしたいと思います。暫時休憩いたします。

午後2時20分 委員会休憩

午後2時21分 委員会再開

○委員長（伊藤 仁） 委員会を再開いたします。

何か委員長報告に付すべき内容について、委員の皆様が発言を求めます。

特にないようですので、委員長報告に付する内容については特段なしということで進めさせていただきます。

委員長報告についてですが、内容につきましては、正副委員長にご一任いただきたいと思います、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 仁） ご異議なしと認め、そのように決定しました。

ここで、委員会を暫時休憩いたします。

午後2時22分 委員会休憩

午後2時22分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 分科会を再開します。

これより、イ、分科会意見・要望のまとめに入ります。

休憩前に当分科会に審査を分担されました案件の審査は終了しました。

ここで、分科会意見・要望として、予算決算委員会に報告すべき内容について協議を願いたいと思います。

暫時休憩をいたします。

午後2時23分 分科会休憩

午後2時29分 分科会再開

○分科会長（伊藤 仁） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

予算決算委員会に報告すべき内容について協議をいただきたいと思います。

分科会長報告に付すべき内容がありましたら、ご発言ください。

足田委員。

○委員（足田 仁司） 今後、外国人が豊岡市にたくさん住まれる時代が来るとすれば、決算書にあります外国人住民に関する調査研究という取組は大変評価できます。その上で、外国人に対しての政策をもっともっと充実して取り組んでいただきたいと思います。あまりようけ言わなくてもええですね。

○分科会長（伊藤 仁） ありがとうございます。

今、足田委員のほうから、外国人労働者に対する……。

○委員（足田 仁司） 労働者じゃないよ、外国人住

民。

○分科会長（伊藤 仁） 113ページのやつですね。

○委員（足田 仁司） はい、そうです。

○分科会長（伊藤 仁） 外国人住民に関する調査研究についての意見をつけたらどうだという発言がありました。

ほかの委員さんはいかがでしょう。

石津委員。

○委員（石津 一美） その中に、今日言われた280万円の補助をしているということなんですけど、どの辺りまで補助をされているのかとかいう。

○委員（木谷 敏勝） これ、あいうえおと国際交流協会の補助金だから、外国人と関係ない。

○委員（足田 仁司） 日本語教師で、ちょろっと絡むけど、メインじゃないよね。

○委員（木谷 敏勝） メインじゃない。

○委員（石津 一美） ああ、そうですか、分かりました。

○分科会長（伊藤 仁） 今、足田委員さんのほうから発言ございましたけど、この件については載せさせていただくということで、ほかに何か、これ以上に載せるような内容についてはございませんでしょうか。

ないようですので、予算決算委員会での分科会長報告についてですが、内容につきましては、正副分科会長にご一任願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（伊藤 仁） 異議なしと認め、そのように決定させていただきます。

以上で、分科会を閉会いたします。

午後2時32分 分科会閉会

午後2時32分 委員会再開

○委員長（伊藤 仁） 委員会を再開いたします。

これより4、その他に入ります。

その他、委員の皆さんから何かあればお願いをいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（伊藤 仁） ないようですので、以上をもちまして総務委員会を閉会いたします。大変お疲れさまでした。

午後2時32分 委員会閉会